

令和7年度

公益社団法人 日本薬理学会 学術評議員会・通常総会資料

令和7年3月18日(火) 16時40分より
幕張メッセ コンベンションホールA (第2会場)
千葉県千葉市

資料目次

I.	令和6年度事業報告	1
II.	令和6年度決算報告	6
III.	令和7年度事業計画	17
IV.	令和7年度収支予算	20
V.	名誉会員候補者一覧	24
VI.	永年会員候補者一覧	25
VII.	部会選出新常置委員会委員一覧	26
VIII.	規則の制定・変更	27
IX.	理事会等報告	30
X.	委員会等報告	32
XI.	役員選挙等報告	43
XII.	新学術評議員候補者一覧	44

日本薬理学会ホームページ 〈 <https://www.pharmacol.or.jp> 〉

日本薬理学会ホームページ英語版 〈 <https://pharmacol.or.jp/e/> 〉

J P S ホームページ 〈 <https://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences> 〉

薬理学エデュケーター認定者一覧 〈 <https://pharmacol.or.jp/educator> 〉



公益社団法人日本薬理学会
令和7年度学術評議員会及び通常総会

- 開催日時：令和7年3月18日（火）16時40分より
- 開催場所：幕張メッセ コンベンションホールA（第2会場）
- 付議事項

第1号議案	令和6年度事業報告及び収支決算承認の件
第2号議案	令和7年度事業計画及び収支予算の件
第3号議案	諸規則の件
第4号議案	名誉会員及び永年会員の件
第5号議案	新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

(任期：2024年12月2日から2026年に実施される代議員選挙の日まで)

【北 部 会】(20名)

飯村 忠浩	泉 剛	岡村 信行	加藤 幸成	川畑伊知郎	久野 篤史
佐々木拓哉	佐藤 久美	三部 篤	平 英一	谷村 明彦	丹野 孝一
中川西 修	中村 正帆	中山 恒	根本 互	平島 正則	南 雅文
森口 茂樹	守屋 孝洋				

【関東部会】(50名)

赤羽 悟美	安達 一典	天野 英樹	池田 弘子	石川 智久	磯濱洋一郎
伊藤 義也	上園 保仁	上田 泰己	内田 直樹	大内 基司	粕谷 善俊
刀坂 泰史	諫田 泰成	木村 元気	葛巻 直子	熊谷 雄治	小泉 修一
小島 史章	小菅 康弘	小山 隆太	三枝 禎	斎藤 顕宜	阪田 泰子
坂本 多穂	佐藤 洋美	柴田 佳太	杉山 篤	砂川 陽一	高木 教夫
高原 章	高見 正道	田中 光	田辺 光男	富田太一郎	中村 浩之
成田 年	南郷 拓嗣	二藤 彰	野部 浩司	林 秀樹	藤田 朋恵
細野加奈子	堀 正敏	堀江 俊治	丸ノ内徹郎	宮岸 寛子	村山 尚
森本 達也	山澤徳志子				

【近畿部会】(50名)

相澤 風花	浅沼 幹人	天ヶ瀬紀久子	池田 康将	石井 優	岩田 和実
位田 雅俊	上原 孝	大喜多 守	大野 行弘	大矢 進	小坂田文隆
小澤光一郎	笠井 淳司	加藤 伸一	金子 周司	金田 勝幸	川田 敬
川畑 篤史	木口 倫一	北岡 志保	北中 純一	北中 順恵	北村 佳久
倉本 展行	小山 豊	酒井 規雄	四宮 一昭	白川 久志	関 貴弘
宝田 剛志	田中 宏幸	土屋浩一郎	中本賀寿夫	永安 一樹	奈邊 健
新村 貴博	西村 有平	原 英彰	人見 浩史	平野 勝也	藤井 正徳
藤野 裕道	古屋敷智之	森 秀治	八木 健太	山村 寿男	吉岡 靖啓
吉栖 正典	米山 雅紀				

【西南部会】(20名)

石塚 洋一	今村 武史	岩崎 克典	香月 博志	桂林秀太郎	金子 雅幸
神戸 悠輝	久場 敬司	齊藤 源頭	清水 孝洋	首藤 剛	城野 博史
竹内 弘	津田 誠	筒井 正人	寺薗 英之	道具 伸也	西 昭徳
山口 拓	和田孝一郎				

以上 140 名

I. 令和6年度事業報告

1. 学術集会、講演会等の開催（定款第4条第1号）

(1) 年会の開催

開催なし

(2) 地方部会

- | | |
|-----------------|--|
| 第144回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：大野 行弘（大阪医科薬科大学・薬）
2024年3月20日 大阪医科薬科大学薬学部阿武山キャンパス（ハイブリッド開催）
参加者462名，一般演題（口演57題，内YIA10題） |
| 第150回日本薬理学会関東部会 | 部会長：上園 保仁（東京慈恵会医科大学・医）
2024年6月29日 オンライン
参加者200名，特別講演1，教育講演3，一般演題（口演42題，ポスター14題） |
| 第145回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：石原 熊寿（広島国際大学・薬）
2024年7月6日 広島国際大学呉キャンパス
参加者135名，一般演題（口演48題，内YIA20題） |
| 第75回日本薬理学会北部会 | 部会長：平 英一（岩手医科大学・医）
2024年9月21日 アイーナ いわて県民情報交流センター
参加者98名，一般演題（口演33題，ポスター4題），Late breaking 演題（ポスター3題），西宮機能系基礎医学研究助成基金受賞講演3 |
| 第151回日本薬理学会関東部会 | 部会長：成田 年（星薬科大学・薬）
2024年10月12日 星薬科大学
参加者264名，シンポジウム4，一般演題（口演53題，ポスター26題） |
| 第77回日本薬理学会西南部会 | 部会長：岩本 隆宏（福岡大学・医）
2024年11月16日 福岡市美術館
参加者129名，シンポジウム2，YIA（口演18題，ポスター15題），一般演題（口演20題，ポスター5題） |
| 第146回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：田中 智之（京都薬科大学・薬）
2024年11月30日 京都薬科大学
参加者131名，一般演題（口演52題，内YIA21題） |

(3) 市民公開講座の開催

- ・2024年9月21日 アイーナ いわて県民情報交流センター（第75回北部会開催時）
『現代における大人の心のケアに向けて～高齢者の認知症と若者の引きこもりにスポットを当てて～』
演者：阪井 一雄（神戸学院大学・総合リハ），山科 満（中央大学・文）
- ・2024年11月17日 福岡市美術館ミュージアムホール（第77回西南部会開催時）
『元気で長生きするための市民公開講座』
演者：上原 吉就（福岡大学・スポーツ），大槻 純男（熊本大学・院生），喜多紗斗美（徳島文理大学・薬）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

- ・次世代薬理学セミナー2024 in 岩手（第75回北部会開催時，ハイブリッド） 2024年9月21日
『細胞内局所シグナル制御機構の解明と創薬』
- ・次世代薬理学セミナー2024 in 東京（第151回関東部会開催時，星薬科大学） 2024年10月12日
『次世代研究者による心臓および血管に着目した薬理学的研究』

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

- ・看護薬理学カンファレンス2024 in 東京，2024年6月30日 大会長：坂本 謙司（帝京大学・薬）
- ・看護薬理学カンファレンス2024 in 石川，2024年11月2日 大会長：新田 淳美（富山大学・薬）

(6) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本医学会連合 領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）加齢性難聴の啓発に基づく健康寿命延伸事業
2024 年 9 月 2 日（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会事務局およびオンライン配信）
『多領域の専門家が挑む加齢性難聴とその社会的課題 - Healthy Aging と認知症対策における聴こえの役割 -』

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・安西尚彦理事がアジア太平洋薬理学者連盟（APFP）会長に選出された（任期：2024 年～2028 年）。
- ・第 3 回アソシエイツ交流会を 2024 年 8 月 28 日にオンラインにて開催した。
- ・第 25 回韓日薬理学合同セミナー（2024 年 11 月 7 日～9 日、済州島）にて、斎藤顕宜教授（東京理科大学）、西谷友重教授（和歌山県立医科大学）、増田隆博教授（九州大学）が講演し、一般発表者（口頭・ポスター）10 名の旅費の補助を行った。
- ・APFP2024 Melbourne（2024 年 12 月 1 日～4 日）にて、萩原正敏特任教授（京都大学）が講演し、旅費の補助を行った。

2. 学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号 154 巻 1～4 号, 155 巻 1～4 号, 156 巻 1～4 号

	掲載頁数	(篇数)
① Review	79 頁	(10)
② Full Paper	625 頁	(65)
③ Short Communication	44 頁	(10)
合計	748 頁	(85)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）159 巻 1 号（3,450 部）、159 巻 2 号（3,350 部）、159 巻 3 号（50 部）、
159 巻 4 号（50 部）、159 巻 5 号（50 部）、159 巻 6 号（50 部）

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	14 頁	(14)
② 特集および総説	249 頁	(47)
③ 実験技術	6 頁	(1)
④ 創薬シリーズ	23 頁	(4)
⑤ 新薬紹介総説	96 頁	(9)
⑥ キーワード解説	0 頁	(0)
⑦ 最近の話題	9 頁	(9)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	4 頁	(4)
⑨ 学会便り/研究室訪問	7 頁	(7)
⑩ アゴラ	8 頁	(4)
⑪ 広告	10 頁	
⑫ 綴込み、目次等上記以外の頁	72 頁	
合計	498 頁	(99)

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）

(1) 第 18 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

該当者なし

(2) 第 40 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は申請時）

高露 雄太（九州大学大学院薬学研究院薬理学分野・准教授）

『アストロサイト多様性意義の解明に関する研究』

中村 庸輝（広島大学大学院医系科学研究科（薬）・助教）

『難治性疼痛病態の理解に基づく鎮痛薬開発を目指した薬理学研究』

永井 裕崇（神戸大学大学院医学系研究科・助教）
『環境要因が組織恒常性の破綻を招く機序の解明』

(3) 第30回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞

Neuronal activation of nucleus accumbens by local methamphetamine administration induces cognitive impairment through microglial inflammation in mice.

Yuka Kusui, Naotaka Izuo, Reika Tokuhara, Takashi Asano, Atsumi Nitta

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 154, Issue 3, 2024, Pages 127-138.

Chronic stress alters lipid mediator profiles associated with immune-related gene expressions and cell compositions in mouse bone marrow and spleen.

Io Horikawa, Hirotaka Nagai, Masayuki Taniguchi, Guowei Chen, Masakazu Shinohara, Tomohide Suzuki, Shinichi Ishii, Yoshio Katayama, Shiho Kitaoka, Tomoyuki Furuyashiki.

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 154, Issue 4, 2024, Pages 279-293.

(4) 2024年度 JPS 優秀査読者賞

- Atsufumi Kawabata (Kindai University)
- Kazuhiro Nishiyama (Osaka Metropolitan University)
- Naoki Inagaki (Gifu University of Medical Science)
- Tomoe Fujita (Dokkyo Medical University)

(5) 第1回（2024年度）日本薬理学会100周年記念博士研究奨励賞

抱 将史（和歌山県立医科大学・薬）

『血管性認知障害におけるグリア細胞の病態生理学的役割の解明』

河合 洋幸（大阪公立大学・院医）

『快および不快情動の制御におけるセロトニンの役割』

窪田 悠力（藤田医科大学・精神神経病態解明センター）

『双方向トランスレーショナルリサーチを基盤とした精神神経疾患の行動薬理学的解析と機序解明』

田中里奈子（名古屋大学医学部附属病院・薬）

『Rho-kinaseの阻害は、統合失調症に関連する *Arhgap10* 遺伝子変異を有するマウス内側前頭前皮質のスパイン密度の減少と methamphetamine 誘発性認知機能障害を改善する』

宮本 佑（大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・院医）

『肝内の門脈近傍マクロファージは腸内細菌の侵入による炎症から臓器を守る』

吉岡 寿倫（東京理科大学・薬）

『ストレス関連疾患を標的としたδオピオイド受容体作動薬の創薬研究』

吉本 愛梨（東京大学・院薬）

『心拍数を意図的にコントロールする神経回路』

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

関連団体のアンケート調査に協力を行った。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

- (1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛・後援 (令和6年総会資料掲載以降令和7年総会の前日まで)

後 援

1) 第74回脳の医学・生物学会研究会&第3回日本神経化学会若手 KYOUEI 合同大会	令和6年5月18日
2) 国際神経精神薬理学会 2024 年世界大会	5月23日～26日
3) 第18回トランスポーター研究会年会	6月1日, 2日
4) JSOT2024 サテライト企画 Digital Toxicology Conference 大会	7月5日
5) 「子ども薬を創る会」第10回セミナー	7月22日
6) 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2024	8月31日
7) 第29回日本病態プロテオーム学会学術集会	9月6日, 7日
8) Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024	10月12日, 13日
9) 薬理毒性試験の DX 推進研究会	10月30日
10) 創薬薬理フォーラム第32回シンポジウム	10月31日
11) 第40回日本ストレス学会学術総会	11月2日, 3日
12) 第10回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会	11月18日, 19日
13) 日本動物実験代替法学会 37 回大会	11月29日～12月1日
14) 第34回日本循環薬理学会	12月20日
15) 第54回日本心脈管作動物質学会	令和7年1月31日, 2月1日
16) 第75回脳の医学・生物学会研究会	2月1日
17) 第34回神経行動薬理若手研究者の集い	3月16日

協 賛

1) 第31回 HAB 研究機構学術年会	令和6年6月13日, 14日
2) 第25回応用薬理シンポジウム	9月15日, 16日

6. 会議等の開催状況（令和6年総会資料掲載以降令和7年総会前日まで）

総 会	令和6年度 通常総会	令和6年3月20日	(大阪&Zoom)
学術評議員会	令和6年度	令和6年3月20日	(大阪&Zoom)
理 事 会	令和6年度 第2回	令和6年3月19日	(大阪&Zoom)
	第3回	4月7日	(Zoom)
	第4回	5月14日	(Zoom)
	第5回	8月28日	(Zoom)
	第6回	12月6日	(Zoom)
	令和7年度 第1回	令和7年2月25日	(決議の省略)
	第2回	3月16日	(幕張&Zoom)
総務委員会	令和6年度 第1回	令和6年8月26日	(Zoom)
財務委員会	令和6年度 第1回財務ワーキング・第1回	令和6年3月11日	(Zoom)
	第2回財務ワーキング・第2回	11月14日	(Zoom)
	会計監査	令和7年1月8日, 30日～31日, 2月3日	(東京)
	監事監査	2月14日	(東京&Zoom)
編集委員会	令和6年度 第1回	令和6年6月28日	(Zoom)
	第2回	10月21日	(Teams)
研究推進委員会	令和6年度 第2回	令和6年12月11～16日	(メール審議)
広報委員会	令和6年度 第1回	令和6年6月18日	(東京&Zoom)
	第2回	10月7日	(Zoom)
企画教育委員会	令和6年度 第2回	令和6年6月12日	(Zoom)
	令和7年度 第1回	令和7年3月10日	(Zoom)
次世代の会	令和6年度 第1回	令和6年4月8日	(Zoom)
	第2回	12月18日	(Zoom)
	令和7年度 第1回	令和7年1月10日	(Zoom)
賞等選考委員会	令和6年度 第1回	令和6年10月7日	(Zoom)
年会学術企画委員会	令和6年度 第2回	令和6年7月18日	(Zoom)
	第3回	8月27日	(Zoom)
江橋賞選考委員会	令和6年度 第1回	令和6年10月22日	(Zoom)
国際対応委員会	令和6年度 第1回	令和6年8月16日	(Zoom)
将来構想委員会	令和6年度 第2回	令和6年5月22日	(Zoom)
	第3回	6月10日～13日	(メール審議)
	第4回	8月5日	(Zoom)
D X推進委員会	令和6年度 第1回	令和6年8月21日	(Zoom)
	第2回	12月27日	(Zoom)
百周年記念事業準備委員会	令和7年度 第1回	令和6年3月12日	(Zoom)
	第2回	7月9日	(Zoom)

7. 会員状況（令和6年12月31日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正 会 員		総 数
			学術評議員	一般会員	
140	133	128	1,096	2,370	3,727
+2	+1	+2	-63	+97	+37

新入会者数：413名，退会者数：450名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

Ⅱ. 令和 6 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

令和 7 年 2 月 14 日

中村公認会計士事務所
公認会計士 中村友理香

＜財務諸表等監査＞監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和 6 年 1 月 1 日から令和 6 年 12 月 31 日までの令和 6 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－5 (1) の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和 6 年 12 月 31 日現在の令和 6 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

公益社団法人 日本薬理学会
理事長 橋 本 均 殿

令和7年2月14日
公益社団法人 日 本 薬 理 学 会
監事 戸村 裕一
監事 三澤日出巳

私たちは、令和6年1月1日から令和6年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

貸借対照表

令和6年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	625,245	166,744	458,501
預 貯 金	70,231,210	94,858,567	△ 24,627,357
未収入金	2,026,918	17,256,476	△ 15,229,558
前 払 金	1,912,333	1,993,004	△ 80,671
仮 払 金	0	134,939	△ 134,939
貯 蔵 品	242,435	364,802	△ 122,367
流動資産合計	75,038,141	114,774,532	△ 39,736,391
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	11,632,338	11,632,338	0
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	14,117,149	0
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,004,589	0
PYJ基金	1,680,000	1,680,000	0
百周年記念積立資産	10,000,000	9,000,000	1,000,000
特定資産合計	115,216,900	114,216,900	1,000,000
(2) その他固定資産			
構築物	791,448	842,573	△ 51,125
ソフトウェア	230,175	878,809	△ 648,634
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
その他固定資産合計	2,593,625	3,293,384	△ 699,759
固定資産合計	117,810,525	117,510,284	300,241
資 産 合 計	192,848,666	232,284,816	△ 39,436,150
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮 受 金	36,000	0	36,000
前 受 金	687,500	141,000	546,500
未 払 金	2,318,675	42,247,178	△ 39,928,503
預 り 金	61,578	1,007,571	△ 945,993
流動負債合計	3,103,753	43,395,749	△ 40,291,996
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	3,103,753	43,395,749	△ 40,291,996
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取寄付金	4,680,000	4,680,000	0
指定正味財産合計	4,680,000	4,680,000	0
(うち特定資産への充当額)	(4,680,000)	(4,680,000)	(△0)
2. 一般正味財産	185,064,913	184,209,067	855,846
(うち特定資産への充当額)	(110,536,900)	(109,536,900)	(1,000,000)
正味財産合計	189,744,913	188,889,067	855,846
負債及び正味財産合計	192,848,666	232,284,816	△ 39,436,150

正味財産増減計算書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	312,329	312,329	0
特定資産利息	312,329	312,329	0
② 受取会費	39,273,110	39,259,720	13,390
一般会員会費	16,923,110	15,801,000	1,122,110
学術評議員会費	16,560,000	17,009,000	△ 449,000
賛助会員会費	5,790,000	6,449,720	△ 659,720
③ 事業収益	13,297,047	54,539,697	△ 41,242,650
学術集会費収益	6,780,160	44,609,571	△ 37,829,411
購読料収益	1,046,318	701,880	344,438
論文掲載料収益	4,544,168	6,404,246	△ 1,860,078
論文別刷料収益	352,201	1,440,640	△ 1,088,439
広告掲載料収益	574,200	1,383,360	△ 809,160
④ 薬理学エデュケーター申請収益	2,785,000	255,000	2,530,000
申請料収益	2,785,000	255,000	2,530,000
⑤ 受取補助金等	7,000,000	10,760,000	△ 3,760,000
学術集会補助金	500,000	10,760,000	△ 10,260,000
その他補助金	6,500,000	0	6,500,000
⑥ 受取寄付金	1,435,000	8,272,000	△ 6,837,000
一般寄付金	45,000	40,000	5,000
学術集会賛助金	1,390,000	8,142,000	△ 6,752,000
指定正味財産からの振替額	0	90,000	△ 90,000
⑦ 雑 収 益	1,948,592	577,682	1,370,910
受取利息	5,946	1,780	4,166
雑 収 益	1,942,646	575,902	1,366,744
経常収益計	66,051,078	113,976,428	△ 47,925,350
(2) 経常費用			
① 事 業 費	51,762,913	97,431,252	△ 45,668,339
給与手当	3,953,101	7,929,983	△ 3,976,882
法定福利費	559,059	1,310,347	△ 751,288
中退共掛金	96,000	152,000	△ 56,000
事務所借料	2,164,176	2,164,176	0
会 場 費	2,404,945	13,911,301	△ 11,506,356
旅費・通信交通費	1,894,554	3,299,537	△ 1,404,983
印 刷 費	1,881,416	2,934,671	△ 1,053,255
会 議 費	1,031,667	1,328,800	△ 297,133
謝金・その他	6,231,901	12,614,472	△ 6,382,571
懇親会費	1,224,276	1,181,181	43,095
編集・刊行費	11,228,719	14,273,448	△ 3,044,729
国際情報発信強化費	6,500,000	6,500,000	0
学術事業協力費	637,230	528,730	108,500
副 賞	1,195,862	1,242,202	△ 46,340
消耗品費	0	23,963	△ 23,963
業務委託費	10,157,673	26,113,051	△ 15,955,378
租税公課	311,200	1,260,650	△ 949,450
減価償却費	291,134	662,740	△ 371,606

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管 理 費	13,074,819	13,510,686	△ 435,867
給与手当	970,005	1,982,496	△ 1,012,491
法定福利費	139,765	327,584	△ 187,819
中退共掛金	24,000	38,000	△ 14,000
事務所借料	927,504	927,504	0
旅費・通信交通費	1,988,436	806,966	1,181,470
印 刷 費	372,980	348,935	24,045
会 議 費	212,393	883,702	△ 671,309
リース料	364,056	364,056	0
消耗品費	775,940	917,901	△ 141,961
支払手数料	1,284,564	1,222,534	62,030
慶弔費	175,892	272,900	△ 97,008
業務委託費	4,890,326	5,136,033	△ 245,707
租税公課	69,420	10,000	59,420
減価償却費	51,125	51,125	0
選 挙 費	550,000	0	550,000
雑 費	278,413	220,950	57,463
經常費用計	64,837,732	110,941,938	△ 46,104,206
評価損益等調整前当期經常増減額	1,213,346	3,034,490	△ 1,821,144
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	1,213,346	3,034,490	△ 1,821,144
2. 經常外増減の部			
(1)經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2)經常外費用			
固定資産除却損	357,500	0	357,500
經常外費用計	357,500	0	357,500
当期經常外増減額	△ 357,500	0	△ 357,500
当期一般正味財産増減額	855,846	3,034,490	△ 2,178,644
一般正味財産期首残高	184,209,067	181,174,577	3,034,490
一般正味財産期末残高	185,064,913	184,209,067	855,846
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	△ 90,000	90,000
当期指定正味財産増減額	0	△ 90,000	90,000
指定正味財産期首残高	4,680,000	4,770,000	△ 90,000
指定正味財産期末残高	4,680,000	4,680,000	0
III 正味財産期末残高	189,744,913	188,889,067	855,846

正味財産増減計算書内訳表

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計					収益事業等会計		法人会計	内部取引等 消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共 通	小 計	認 定			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益					156,165	156,165		156,164		312,329
特定資産利息					156,165	156,165		156,164		312,329
受取会費					19,636,555	19,636,555		19,636,555		39,273,110
一般会員会費					8,461,555	8,461,555		8,461,555		16,923,110
学術評議員会費					8,280,000	8,280,000		8,280,000		16,560,000
賛助会員会費					2,895,000	2,895,000		2,895,000		5,790,000
事業収益	7,845,160	5,451,887				13,297,047				13,297,047
学術集会会費収益	6,780,160					6,780,160				6,780,160
購読料収益		1,046,318				1,046,318				1,046,318
論文掲載料収益	1,065,000	3,479,168				4,544,168				4,544,168
論文別刷料収益		352,201				352,201				352,201
広告掲載料収益		574,200				574,200				574,200
薬理学エデュケーター申請収益							2,785,000			2,785,000
申請料収益							2,785,000			2,785,000
受取補助金等	500,000	6,500,000				7,000,000				7,000,000
学術集会補助金	500,000					500,000				500,000
その他補助金		6,500,000				6,500,000				6,500,000
受取寄付金	1,390,000					1,390,000		45,000		1,435,000
一般寄付金						0		45,000		45,000
学術集会賛助金	1,390,000					1,390,000				1,390,000
雑収益	809,246	11				809,257		1,139,335		1,948,592
受取利息	746	11				757		5,189		5,946
雑収益	808,500					808,500		1,134,146		1,942,646
経常収益計	10,544,406	11,951,898	0	0	19,792,720	42,289,024	2,785,000	20,977,054	0	66,051,078
(2)経常費用										
事業費	24,609,740	20,740,328	2,847,019	2,240,106		50,437,193	1,325,720			51,762,913
給料手当	2,964,826	247,069	247,069	247,069		3,706,033	247,068			3,953,101
法定福利費	419,295	34,941	34,941	34,941		524,118	34,941			559,059
中退共掛金	72,000	6,000	6,000	6,000		90,000	6,000			96,000
事務所借料	1,236,672	309,168	309,168	154,584		2,009,592	154,584			2,164,176
会場費	2,404,945					2,404,945				2,404,945
旅費・通信交通費	1,257,000	32,246		560,128		1,849,374	45,180			1,894,554
印刷費	1,881,416					1,881,416				1,881,416
会議費	1,031,667					1,031,667				1,031,667
謝金・その他	5,171,265	392,345	561,058	107,233		6,231,901				6,231,901
懇親会費	1,224,276					1,224,276				1,224,276
編集・刊行費		11,228,719				11,228,719				11,228,719
国際情報発信強化費		6,500,000				6,500,000				6,500,000
学術事業協力費				637,230		637,230				637,230
副 賞			1,195,862			1,195,862				1,195,862
業務委託費	6,794,568	1,884,342	492,921	492,921		9,664,752	492,921			10,157,673
租税公課	151,810	105,498				257,308	53,892			311,200
減価償却費						0	291,134			291,134
事業費計	24,609,740	20,740,328	2,847,019	2,240,106	0	50,437,193	1,325,720	0		51,762,913
管理費								13,074,819		13,074,819
給料手当								970,005		970,005
法定福利費								139,765		139,765
中退共掛金								24,000		24,000
事務所借料								927,504		927,504
旅費・通信交通費								1,988,436		1,988,436
印刷費								372,980		372,980
会議費								212,393		212,393
リース料								364,056		364,056
消耗品費								775,940		775,940
支払手数料								1,284,564		1,284,564
慶弔費								175,892		175,892
業務委託費								4,890,326		4,890,326
租税公課								69,420		69,420
減価償却費								51,125		51,125
選挙費								550,000		550,000
雑 費								278,413		278,413
管理費計								13,074,819		13,074,819
経常費用計	24,609,740	20,740,328	2,847,019	2,240,106	0	50,437,193	1,325,720	13,074,819		64,837,732
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,065,334	△ 8,788,430	△ 2,847,019	△ 2,240,106	19,792,720	△ 8,148,169	1,459,280	7,902,235		1,213,346
基本財産評価増減益等										
特定資産評価増減益等										
投資有価証券評価増減益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△ 14,065,334	△ 8,788,430	△ 2,847,019	△ 2,240,106	19,792,720	△ 8,148,169	1,459,280	7,902,235		1,213,346
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用										
固定資産除却損							357,500			357,500
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	357,500	0		357,500
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	△ 357,500	0		△ 357,500
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 14,065,334	△ 8,788,430	△ 2,847,019	△ 2,240,106	19,792,720	△ 8,148,169	1,101,780	7,902,235		855,846
他会計振替額	0	0	0	0	562,208	562,208	△ 562,208	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 14,065,334	△ 8,788,430	△ 2,847,019	△ 2,240,106	20,354,928	△ 7,585,961	539,572	7,902,235		855,846
一般正味財産期首残高						50,596,330	84,324	133,528,413		184,209,067
一般正味財産期末残高						43,010,369	623,896	141,430,648		185,064,913
II 指定正味財産増減の部										
受取補助金	0	0	0	0	0	0	0	0		0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0		0
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	1,680,000	0	0	0	0	1,680,000	0	3,000,000		4,680,000
指定正味財産期末残高	1,680,000	0	0	0	0	1,680,000	0	3,000,000		4,680,000
III 正味財産期末残高	1,680,000	0	0	0	0	44,690,369	623,896	144,430,648		189,744,913

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、原価法によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

既刊紙は1冊を1円として評価している。

メダルは最終仕入による原価法。

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	11,632,338	0	0	11,632,338
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	0	0	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,004,589	0	0	12,004,589
PYJ基金	1,680,000	0	0	1,680,000
百周年記念積立資産	9,000,000	1,000,000	0	10,000,000
合 計	114,216,900	1,000,000	0	115,216,900

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債に 対応する額)
薬理学基金	50,000,000	-	(50,000,000)	-
国際基金	11,632,338	-	(11,632,338)	-
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	-	(14,117,149)	-
刊行基金	15,782,824	-	(15,782,824)	-
褒賞基金	12,004,589	-	(12,004,589)	-
PYJ基金	1,680,000	(1,680,000)	-	-
百周年記念積立資産	10,000,000	(3,000,000)	(7,000,000)	-
合 計	115,216,900	(4,680,000)	(110,536,900)	(-)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
構築物	920,260	128,812	791,448
ソフトウェア	511,500	281,325	230,175
合 計	1,431,760	410,137	1,021,623

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
社債・第10回みずほフィナンシャルグループ社債	30,296,100	29,652,300	△ 643,800
社債・三井トラストHD(株)第3回無担保社債	30,523,200	29,859,000	△ 664,200
合 計	60,819,300	59,511,300	△ 1,308,000

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	0	6,500,000	6,500,000	0	
部会開催賛助金 (第144回近畿部会)	(学)大阪医科 薬科大学	0	500,000	500,000	0	
合 計		0	7,000,000	7,000,000	0	

7. 資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき、オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、当面事務局を移転する予定もないことから、資産除却債務を合理的に見積もることができない。そのため、当該債務に見合う資産除却債務を計上していない。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

該当なし。

財 産 目 録

令和6年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金 預 貯 金	手元保管	運転資金として	625,245
		普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	14,068,499
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	18,859,485
		ゆうちょ銀行定期貯金	運転資金として	13,000,000
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	14,393,932
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	9,909,294
			＜現金・預貯金計＞	70,856,455
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	306,000
		学術評議員会費(59名分)	規則で定められた会員の要支払会費額である	880,000
		和文誌購読料	刊行事業の未収分である	669,108
		論文別刷料	同 上	79,860
		バックナンバー売上金	既刊雑誌の売上未収分である	4,350
		その他未収入金	消費税還付分	87,600
			＜未収入金計＞	2,026,918
	前 払 金	第98回年会	学術集会開催準備金である	1,900,000
		その他前払金	社債の経過利息である	12,333
		＜前払金計＞	1,912,333	
	貯 蔵 品	既刊誌(2023, 2024年)	既刊雑誌の在庫数である	1,509
		メダル	江橋賞メダル在庫 2個	240,926
			＜貯蔵品計＞	242,435
流 動 資 産 合 計				75,038,141
(固定資産)	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している(うち公益目的保有財産50%)	40,000,000
		定期預金・みずほ銀行本郷支店		10,000,000
		＜薬理学基金計＞	50,000,000	
	国際基金	投資有価証券	海外の学会との連携事業の原資である(公益目的保有財産)	11,632,338
			＜国際基金計＞	11,632,338
	振興基金	投資有価証券	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座、及び次世代薬理学セミナー開催事業等の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
			＜学術講演基金計＞	14,117,149
	刊行基金	投資有価証券	刊行事業、薬理学に関する研究及び調査事業の原資である(公益目的保有財産)	15,782,824
			＜刊行基金計＞	15,782,824
	褒賞基金	投資有価証券	研究業績を表彰する事業の原資である(公益目的保有財産)	12,004,589
			＜褒賞基金計＞	12,004,589
	PYJ基金	ゆうちょ銀行通常貯金	年会及び部会の特別企画用の寄附金	1,680,000
			＜PYJ基金＞	1,680,000
	百周年記念積立資産	投資有価証券	百周年記念事業の積立金である(特定費用準備資金)	7,282,400
		ゆうちょ銀行通常貯金		2,717,600
			＜百周年記念積立資産＞	10,000,000
	＜特定資産合計＞	115,216,900		

そ の 他 固 定 資 産	構築物	事務局建具	事務局建具の増設分である	791,448
	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	230,175
			{ うち公益目的事業に使用	0
			{ うちその他の事業に使用	230,175
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり、公益目的事業に使用している	2
	保 証 金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
		{ うち公益目的保有財産25%	393,000	
		{ うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000	
＜その他固定資産計＞				2,593,625
固 定 資 産 合 計				117,810,525
資 産 合 計				192,848,666
(流 動 負 債)	仮受金	会員(3名)による過払金	会員からの仮受未精算分である	36,000
			＜仮受金計＞	36,000
	前 受 金	2025年一般会員会費(5名分)		42,000
		2025年学術評議員会費(19名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度の会費である.	255,000
		2026年一般会員会費(一部)		500
		年会関連収入	APPW2025寄付金	390,000
			＜前受金計＞	687,500
	未 払 金	給与等	職員の給与等である	406,620
		社会保険料	事業主負担分である	62,730
		代理店委託費	学会誌の代理店委託費である	395,679
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費等である	1,425,350
		その他未払金	刊行事業の旅費通信交通費である	28,296
			＜未払金計＞	2,318,675
	預 り 金	職員社会保険料等	職員から預かった社会保険料等である	61,254
		学術集会源泉税	第146回近畿部会アルバイト代源泉税である	324
		＜預り金計＞	61,578	
流 動 負 債 合 計				3,103,753
(固 定 負 債)				0
固 定 負 債 合 計				0
負 債 合 計				3,103,753
正 味 財 産				189,744,913

Ⅲ. 令和7年度事業計画

薬理学は、生体と薬物を含む生体内外の化学物質との関わりを個体から分子に至るレベルで明らかにする学問であり、薬理学により生体の理解が進み、それが新たな薬理学を創るサイクルが回ることによって、生命の仕組みの解明、創薬、薬物治療の発展に貢献してきました。日本薬理学会の定款では、その目的を「薬理学の進歩を図り、もってわが国学術文化の発展に寄与すること」と定めており、この理念に沿った学会活動が行われてきており、今後もこれを継承した活動を進めて参ります。

さて、本会は2年後の2027年に設立100周年を迎えるにあたり、100周年記念事業を計画しています。本年度も引き続き、この記念事業の成功に向けた準備を行います。また、本会の重要な活動として、学術誌の出版事業があります。英文誌（JPS）は学術的価値の高い国際誌であり、引き続きJPSのステータスの一層の向上を目指します。日薬理誌は、会誌としての機能に加え、学術的価値が高い優れた総説等を掲載しています。両誌ともにオープンアクセス化しており、学術面での社会貢献の意義が大きく、今後も有用な情報を発信して参ります。年会、地方部会、市民公開講座、次世代薬理学セミナー、看護薬理学カンファレンス等は本会の目的を達成するための重要事業であり、学術集会長・組織委員会との連携のもと、引き続き活発な学術集会の開催を支援する体制を整備します。国内外の関連学会との連携協力を通して薬理学の進歩を図り社会に貢献することは、本会の最も重要な活動であり、今後も継続して参ります。さらに、女性ならびに若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでまいります。

なお、財政面では依然不安定であり、持続可能な学会運営への移行を図ります。本会の事務局については、業務を円滑に遂行する体制の構築に努めます。

本会のさらなる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 橋本 均

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

(1) 年会の開催

- ・第98回 日本薬理学会年会（第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会と合同開催、APPW2025）

年会長：赤羽 悟美（東邦大・医）

2025年3月17日～19日 幕張メッセ（千葉県）

(2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- ・第147回 日本薬理学会近畿部会 部会長：近藤 一直（藤田医科大学・医）
2025年6月7日 ウィンクあいち（愛知県）
- ・第152回 日本薬理学会関東部会 部会長：山崎 純（日本大学・資源）
2025年6月28日 オンライン開催
- ・第76回 日本薬理学会北部会 部会長：谷村 明彦（北海道医療大学・歯）
2025年10月4日～5日 札幌市教育文化会館（北海道）
- ・第153回 日本薬理学会関東部会 部会長：小泉 修一（山梨大学・院医）
2025年10月25日 大村智記念学術館及び山梨大学（山梨県）
- ・第78回 日本薬理学会西南部会 部会長：池田 正浩（宮崎大学・農）
2025年11月8日 宮崎大学錦本町ひなたキャンパス（宮崎県）
- ・第148回 日本薬理学会近畿部会 部会長：富田 修平（大阪公立大学・院医）
2025年11月29日 大阪公立大学阿倍野キャンパス（大阪府）

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として、地方部会等と連動して市民公開講座を開催する。第98回年会、第153回関東部会、第78回西南部会の計3回の開催を予定している。

- ・市民公開講座（第98回年会）2025年3月16日 テーマ：「病は気からのサイエンス」 於：幕張メッセ2階

日本解剖学会、日本生理学会とともに開催

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化および国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参

画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。Web 配信により全会員が無料で視聴できる。第 147 回近畿部会、第 78 回西南部会に合わせて計 2 回の開催を予定している。

- ・次世代薬理学セミナー2025 in 名古屋 2025 年 6 月 7 日 於：ウイंकあいち&WEB 開催

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

会員数の少ない領域（保健学・看護系大学あるいは医療機関における教育研究者や看護職者など）に対し、薬理学会との交流の機会を提供し、同時に本会の若手会員のキャリア開発を支援することにより、薬理学教育・研究の益々の発展に資する企画として地方部会等と協力し、看護薬理学カンファレンスを開催する。第 98 回年会、第 148 回近畿部会に合わせて計 2 回の開催を予定している。

- ・看護薬理学カンファレンス 2025 in 幕張 2025 年 3 月 20 日 於：WEB 開催&オンデマンド配信

(6) Digital Pharmacology Conference (DPC) の開催

将来の薬理学分野の活性化や広がり貢献できる Digital Pharmacology Conference (DPC) のコンセプトのさらなる発展を目指して、シン・薬理学セミナー第 4 回 Digital Pharmacology Conference (DPC) を第 98 回年会時に開催する。

(7) 「クスリがわかる」シリーズの開催

クスリの作用機序（基礎）から使い分け（臨床）までを網羅した講演を、医療職や学生を対象とし開催する。第 98 回年会時に 6 つのテーマについて「基礎」と「臨床」の視点から 3 日間を通して 6 講演、開催する。

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業 2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2025 年刊行予定：157 巻 1～4 号、158 巻 1～4 号、159 巻 1～4 号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2025 年刊行予定：160 巻 1～6 号 計 6 冊

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業 3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している。

- ・第 19 回江橋節郎賞は 5 月末日までに「基礎」の領域での募集を公告し、推薦締切は 8 月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第 40 回学術奨励賞受賞者 3 名の受賞講演は、第 98 回年会会期中（2025 年 3 月 17 日、幕張）に行われる。
- ・第 41 回学術奨励賞は 5 月末日までに募集を公告し、推薦の締切は 8 月末日、賞等選考委員会の選考を経た 3 件以内の候補者について理事会で決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

JPS 優秀論文賞は、授賞年度の前年 1 年間に JPS に掲載された原著論文の中から選考し、その著者に授与する。

- ・第 29 回 JPS 優秀論文賞受賞者および第 30 回 JPS 優秀論文賞受賞者に賞状と副賞を授与する。
- ・第 31 回 JPS 優秀論文賞 3 編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 98 回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10 件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体として国際連携を推進する。

(2) 日本医学会および日本医学会連合との連携

日本医学会および日本医学会連合の加盟学会として他学会と連携して医学・生命科学研究の推進と医学の発展に貢献する。

(3) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。連合の一員として、行政等への提言、働きかけを行う。

(4) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

(5) 日本薬系学会連合との連携

専門性を有する薬系学会の相互交流と連携を図り、薬と健康に関する科学及び技術の研究を促進することにより、薬学の水準を向上させ、医療および健康増進に貢献する。

(6) 男女共同参画学協会連絡会との連携

学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワークづくりを行い、社会に貢献する。

(7) 国内の関連学術団体と連携して年会で共催シンポジウム等を開催する。

(8) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

・ JPS-ASCEPT Lecture

第98回年会会期中（2025年3月、幕張）に講師招聘。

・ 第10回日中薬理学臨床薬理学ジョイントシンポジウム

第46回日本臨床薬理学会学術総会会期中（2025年12月、東京）に日本臨床薬理学会と共同開催。

・ JPS-ASPET 講師交換プログラム

再開に向けた折衝を開始する。

・ NC-IUPHAR 委員派遣

・ 国際対応アソシエイツ運営と交流会

・ 運営および若手の参加支援

5 薬理学エデュケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及および研究水準向上への貢献を目的として、薬理学エデュケーター認定事業を行っている。毎年、6月1日から30日まで申請を受け付ける。

6 その他

(1) 業務執行体制の整備と強化

・ 代表理事1名、業務執行理事3名による執行体制で常務理事会を構成し、様々な課題に取り組む。

(2) 社会に向けて

・ 科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうため、公開講座をとおして啓発活動を行う。

・ 倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

(3) 事務局体制について

・ 常勤1名と外部委託職員にて、業務を遂行する。

Ⅳ. 令和7年度収支予算

令和7年度収支予算

2025年1月1日から2025年12月31日まで

(単位：円)

	2025年度予算額	2024年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	(393,000)	(393,000)	(0)	
基金運用益	393,000	393,000	0	
② 受取会費	(38,600,000)	(37,620,000)	(980,000)	
1 一般会員会費	15,800,000	15,120,000	680,000	
2 学術評議員会費	16,800,000	16,500,000	300,000	
3 賛助会員会費	6,000,000	6,000,000	0	
③ 事業収益	(107,550,000)	(13,660,000)	(93,890,000)	
1 学術集会費収益	(102,652,000)	(8,495,000)	(94,157,000)	
参加登録費	56,577,000	5,185,000	51,392,000	
器械展示料・予稿集広告料	23,365,000	1,220,000	22,145,000	
情報交換会費	6,210,000	2,090,000	4,120,000	
ランチョンセミナー	16,500,000	0	16,500,000	
2 購読料	(40,000)	(85,000)	(△ 45,000)	
3 論文掲載料	(3,558,000)	(3,540,000)	(18,000)	
4 論文別刷料	(600,000)	(740,000)	(△ 140,000)	
5 広告掲載料	(700,000)	(800,000)	(△ 100,000)	
④ 薬理学エディター申請	(350,000)	(2,300,000)	(△ 1,950,000)	
申請料収益	350,000	2,300,000	△ 1,950,000	
⑤ 受取補助金等	(3,700,000)	(6,500,000)	(△ 2,800,000)	
1 指定正味財産からの振替額	0	6,500,000	△ 6,500,000	
2 学術集会補助金	3,700,000	0	3,700,000	
⑥ 受取寄付金	(4,820,000)	(800,000)	(4,020,000)	
1 指定正味財産からの振替額	0	0	0	
2 学術集会賛助金	4,820,000	800,000	4,020,000	
⑦ 雑収益	(601,600)	(1,400)	(600,200)	
受取利息等	601,600	1,400	600,200	
経常収益計	156,014,600	61,274,400	94,740,200	
(2) 経常費用				
① 事業費	(156,230,616)	(49,924,766)	(106,305,850)	
給料手当	1,680,000	2,550,000	△ 870,000	
法定福利費	600,000	800,000	△ 200,000	
中退共掛金	96,000	96,000	0	
事務所借料	2,164,176	2,164,176	0	
会場費	48,270,810	4,874,260	43,396,550	
旅費・通信交通費	3,194,610	4,450,000	△ 1,255,390	
印刷費	8,339,100	3,801,000	4,538,100	
会議費	8,637,200	1,426,000	7,211,200	
謝金・その他	8,745,000	5,150,590	3,594,410	
情報交換会費	6,230,000	2,090,000	4,140,000	
編集刊行費	19,090,000	12,500,000	6,590,000	
国際情報発信強化費	200,000	6,500,000	△ 6,300,000	
学術事業協力費	525,000	510,000	15,000	
副 賞	1,500,000	1,250,000	250,000	
消耗品費	0	100,000	△ 100,000	
業務委託費	45,988,720	1,000,000	44,988,720	
租税公課	400,000	0	400,000	
減価償却費	570,000	662,740	△ 92,740	

(単位：円)

	2025年度予算額	2024年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	(14,886,504)	(23,781,504)	(△ 8,895,000)	
給料手当	3,120,000	4,450,000	△ 1,330,000	
法定福利費	150,000	200,000	△ 50,000	
中退共掛金	24,000	24,000	0	
事務所借料	927,504	927,504	0	
旅費・通信交通費	1,000,000	1,800,000	△ 800,000	
印刷費	150,000	300,000	△ 150,000	
会議費	600,000	700,000	△ 100,000	
リース料	370,000	400,000	△ 30,000	
消耗品費	800,000	1,000,000	△ 200,000	
支払手数料	1,250,000	2,000,000	△ 750,000	
慶弔費	300,000	500,000	△ 200,000	
業務委託費	5,930,000	11,000,000	△ 5,070,000	
租税公課	10,000	20,000	△ 10,000	
減価償却費	55,000	60,000	△ 5,000	
選挙費	0	200,000	△ 200,000	
雑 費	200,000	200,000	0	
経常費用計	171,117,120	73,706,270	97,410,850	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 15,102,520	△ 12,431,870	△ 2,670,650	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 15,102,520	△ 12,431,870	△ 2,670,650	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 15,102,520	△ 12,431,870	△ 2,670,650	
一般正味財産期首残高	145,997,479	158,429,349	△ 12,431,870	
一般正味財産期末残高	130,894,959	145,997,479	△ 15,102,520	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金				
受取補助金	0	6,500,000	△ 6,500,000	
② 受取寄付金				
受取寄付金	0	0	0	
③ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	130,894,959	145,997,479	△ 15,102,520	

令和7年度収支予算書

令和7年度収支予算書7年1月1日から令和7年12月31日まで

(単位：円)

	公益目的事業会計（内訳表）					小計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通		他1 エデュケーター			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
① 特定資産運用益	0	0	0	0	196,500	196,500	0	196,500	0	393,000
基金運用益					196,500	196,500		196,500		393,000
② 受取会費	0	0	0	0	19,300,000	19,300,000	0	19,300,000	0	38,600,000
1 一般会員会費					7,900,000	7,900,000		7,900,000		15,800,000
2 学術評議員会費					8,400,000	8,400,000		8,400,000		16,800,000
3 賛助会員会費					3,000,000	3,000,000		3,000,000		6,000,000
③ 事業収益	103,510,000	4,040,000	0	0	0	107,550,000	0	0	0	107,550,000
1 学術集会費収益	102,652,000	0				102,652,000				102,652,000
参加登録費	56,577,000	0				56,577,000				56,577,000
器械展示料		0								
予稿集広告料	23,365,000	0				23,365,000				23,365,000
情報交換会費	6,210,000	0				6,210,000				6,210,000
ランチョンセミナー	16,500,000	0				16,500,000				16,500,000
2 購読料	0	40,000				40,000				40,000
購読料	0	40,000				40,000				40,000
バックナンバー売上金	0	0				0				0
3 論文掲載料	858,000	2,700,000				3,558,000				3,558,000
掲載料	0	2,700,000				2,700,000				2,700,000
演題登録料	858,000	0				858,000				858,000
4 論文別刷料	0	600,000				600,000				600,000
別刷料	0	100,000				100,000				100,000
著作権等使用料	0	500,000				500,000				500,000
5 広告掲載料	0	700,000				700,000				700,000
④ 薬理学エデュケーター申請	0	0	0	0	0	0	350,000	0		350,000
申請料収益							350,000			350,000
⑤ 受取補助金等	3,700,000	0	0	0	0	3,700,000				3,700,000
1 学術集会補助金	3,700,000					3,700,000				3,700,000
2 指定正味財産からの振替	0					0				0
⑥ 受取寄付金	4,820,000	0	0	0	0	4,820,000	0	0		4,820,000
学術集会賛助金	4,820,000					4,820,000				4,820,000
⑦ 雑収益	600,000	0	0	0	800	600,800	0	800		601,600
受取利息	0				800	800		800		1,600
雑収入	600,000					600,000				600,000
経常収益計	112,630,000	4,040,000	0	0	19,497,300	136,167,300	350,000	19,497,300	0	156,014,600
(2) 経常費用										0
① 事業費	127,014,112	21,707,668	3,497,668	2,548,084	200,000	154,967,532	1,263,084		0	156,230,616
1 給料手当	480,000	240,000	480,000	240,000		1,440,000	240,000			1,680,000
2 法定福利費	450,000	37,500	37,500	37,500	0	562,500	37,500			600,000
3 中退共掛金	72,000	6,000	6,000	6,000		90,000	6,000			96,000
4 事務所借料	1,236,672	309,168	309,168	154,584		2,009,592	154,584			2,164,176
5 会場費	48,270,810					48,270,810				48,270,810
6 旅費・通信交通費	2,024,610	100,000		860,000	200,000	3,184,610	10,000			3,194,610
7 印刷費	8,339,100	0				8,339,100				8,339,100
8 会議費	8,557,200	50,000	30,000			8,637,200				8,637,200
9 謝金・その他	7,985,000	10,000	580,000	170,000		8,745,000				8,745,000
10 情報交換会費	6,230,000	0				6,230,000				6,230,000
11 編集刊行費	0	19,090,000				19,090,000				19,090,000
12 国際情報発信強化費	0	200,000				200,000				200,000
13 学術事業協力費	0			525,000		525,000				525,000
14 副 賞	0		1,500,000			1,500,000				1,500,000
15 消耗品費	0					0				0
16 業務委託費	42,658,720	1,665,000	555,000	555,000		45,433,720	555,000			45,988,720
17 租税公課	400,000					400,000				400,000
18 減価償却費	310,000					310,000	260,000			570,000

(単位：円)

	公益目的事業会計（内訳表）					小計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通		他1 エデュケーター			
② 管理費	0	0	0	0	0	0	0	14,886,504	0	14,886,504
1 給料手当								3,120,000		3,120,000
2 法定福利費								150,000		150,000
3 中退共掛金								24,000		24,000
4 事務所借料								927,504		927,504
5 旅費・通信交通費								1,000,000		1,000,000
6 印刷費								150,000		150,000
7 会議費								600,000		600,000
8 リース料								370,000		370,000
9 消耗品費								800,000		800,000
10 支払手数料								1,250,000		1,250,000
11 慶弔費								300,000		300,000
12 業務委託費								5,930,000		5,930,000
13 租税公課								10,000		10,000
14 減価償却費								55,000		55,000
15 選挙費								0		0
16 雑費								200,000		200,000
経常費用計	127,014,112	21,707,668	3,497,668	2,548,084	200,000	154,967,532	1,263,084	14,886,504	0	171,117,120
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,384,112	△ 17,667,668	△ 3,497,668	△ 2,548,084	19,297,300	△ 18,800,232	△ 913,084	4,610,796		△ 15,102,520
基本財産評価損益等										0
特定資産評価損益等										0
投資有価証券評価損益等										0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△ 14,384,112	△ 17,667,668	△ 3,497,668	△ 2,548,084	19,297,300	△ 18,800,232	△ 913,084	4,610,796		△ 15,102,520
2. 経常外増減の部										0
(1) 経常外収益										0
中科目別記載										0
経常外収益計			0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用										0
中科目別記載										0
経常外費用計			0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額			0	0	0	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額										
他会計振替額			0	0	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 14,384,112	△ 17,667,668	△ 3,497,668	△ 2,548,084	19,297,300	△ 18,800,232	△ 913,084	4,610,796		△ 15,102,520
一般正味財産期首残高						43,010,369	623,896	141,430,648		185,064,913
一般正味財産期末残高						0				0
II 指定正味財産増減の部										0
受取補助金等		0								0
受取寄付金		0								0
一般正味財産への振替額		0								0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0		0
III 正味財産期末残高						0			0	0

V. 名誉会員候補者一覧（令和7年度）

理事会は、名誉会員推薦規定第2条第1項第1号 b) 及び同運用基準第2項第1号、第2号に該当すると判断し、次の9氏を推薦いたします。

令和7年4月1日現在、氏名五十音順

氏名 (所属)	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
石毛久美子 (日本大学)	66 歳 39 年	薬理学の研究や教育活動において多くの成果を挙げるとともに、日本薬理学会の運営・発展に貢献。	理事 4 年 委員 24 年
上園 保仁 (東京慈恵会医科大学)	65 歳 40 年	受容体、イオンチャネル蛋白に対する創薬研究を進め、企業と協働し、臨床開発 (phase II) まで進めた。	理事 4 年 監事 2 年 委員 20 年
大野 行弘 (大阪医科薬科大学)	66 歳 44 年	編集委員会など多くの委員会委員や第 144 回近畿部会長を務め、本学会の発展に貢献。	委員 12 年
金井 好克 (大阪大学)	66 歳 32 年	トランスポーターの分子同定に貢献し、特に糖やアミノ酸のトランスポーターを標的とした創薬研究を実践。	理事 6 年 委員 17 年
金子 周司 (京都大学)	67 歳 46 年	疾患機序に基づくイオンチャネルを標的とした創薬標的の探索から臨床情報に基づく創薬への新たな研究展開。	理事 8 年 委員 32 年
杉山 篤 (東邦大学)	65 歳 37 年	薬物性 torsade de pointes の発生メカニズムの解明、その発生予測モデル動物の開発および社会実装。	理事 4 年 委員 14 年
武田 泰生 (日本病院薬剤師会)	66 歳 22 年	神経接着分子の機能に関する分子薬理学的解析を中心に抗がん薬耐性化機構や抗菌薬の PK/PD に関する解析等で発展に貢献。	委員 10 年
原 英彰 (岐阜薬科大学)	67 歳 41 年	薬学、特に薬理学並びに医薬品開発学の分野においてインパクトのある多くの教育及び研究業績を挙げた。	理事 2 年 監事 2 年 委員 12 年
山田 清文 (藤田医科大学)	66 歳 44 年	神経精神疾患のモデル動物を開発し、病態解明と新規治療法の開発研究で多大な業績を挙げた。	理事 6 年 委員 20 年

「名誉会員推薦規定」(抜粋)

(資 格)

第2条 名誉会員として推薦することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本会の正会員として20年以上在籍し、年齢65才以上の、役員または常置委員在任中ではない者で、かつ次の事項のいずれかに該当する者
 - a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者
 - b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者
- (2) 非会員のうち、薬理学における学術上の功績が大であり、かつ特に本会の発展に功績が顕著である者
- 2 前項第1号の正会員歴の算定にあたり、理事会は特別の考慮を払うことができる。
- 3 第1項第1号にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる。

「名誉会員推薦規定運用基準」(抜粋)

2. 名誉会員推薦規定第2条第1号 b) の「本会の発展に功績が顕著である者」は、以下の各号のいずれかの者とする。
 - (1) 理事、監事又は年会長を経験した者
 - (2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算10年以上経験した者
3. 名誉会員推薦規定第2条第2号については、以下のとおりとする。
 - (1) 「薬理学における学術上の功績が大である者」は、学士院賞に相当する以上の賞の受賞者又は理事会がそれと同等以上の学術上の功績があると認めた者とする。
 - (2) 「特に本会の発展に功績が顕著である者」は、本会の学術集会で特別講演を行った者、Journal of Pharmacological Sciences に極めて価値のある総説を寄稿した者、Journal of Pharmacological Sciences の Regional Editor として貢献した者、又は理事会がそれらと同等以上の功績があると認めた者とする。

VI. 永年会員候補者一覧（令和 7 年度）

理事会は、永年会員推薦規定第 2 条 及び 同運用基準第 1 項に該当すると判断し、次の 2 氏を推薦いたします。

令和 7 年 4 月 1 日現在、氏名五十音順

氏名／所属歴		年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
鈴木 正彦	埼玉医科大学	73 歳	28 年	51 年	第 2 号
松田 啓一	マツキヨ LAB	82 歳	－	50 年	第 2 号

永年会員推薦規定（抜粋）

第 2 条 永年会員として推薦することができる者は、年齢 70 才以上であり、かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする。

永年会員推薦規定運用基準（抜粋）

1. 永年会員推薦規定第 2 条に基づき、理事会が永年会員に推薦する者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
 - (1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり、かつ、部会長、常置委員会委員、特別委員会委員、Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者
 - (2) 本会の正会員として 50 年以上在籍した者

VII. 部会選出新常置委員会委員一覧

2026, 2027 年度
部会選出新常置委員一覧

(委員は五十音順, 次点者は得票順)

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
飯村 忠浩	赤羽 悟美	吾郷由希夫	久場 敬司
小原祐太郎	天野 英樹	池田 康将	齊藤 源頭
久米 利明	安西 尚彦	石澤 啓介	首藤 剛
佐々木拓哉	大内 基司	大喜多 守	柳田 俊彦
南 雅文	葛巻 直子	白川 久志	山口 拓
吉川 雄朗	黒川 洵子	高井 真司	和田孝一郎
	小林 真之	富田 修平	
	三枝 禎	中川 貴之	
	佐藤 洋美	奈邊 健	
	行方衣由紀	西山 成	
	村田 幸久	人見 浩史	
	山澤徳志子	吉栖 正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
谷村 明彦	安達 一典	西村 有平	池田 龍二
中川 崇	池谷 裕二	古屋敷智之	根本 隆行
新田 淳美	成田 年	土屋浩一郎	津田 誠
久野 篤史	小菅 康弘	新谷 紀人	香月 博志
泉 剛	坂本 謙司	森岡 徳光	筒井 正人
丹野 孝一	村松里衣子	金田 勝幸	鳥取部直子
	大久保洋平	大矢 進	
	田辺 光男	高田 和幸	

VIII. 規則の制定・変更

制 定

DX 推進委員会規定

令和 6 年 3 月 19 日制定

第 1 条(設置)

公益社団法人日本薬理学会(以下「本会」という)は定款第 41 条に基づき、特別委員会として DX 推進委員会(以下「本委員会」という)を設置する。

第 2 条(活動)

本委員会は、本会・本会員が所有する学術関連コンテンツのデジタル化を図り、ホームページや学会誌への掲載を持続的に保持することを目指すとともに、社会に向けた情報発信をより効果的に推進する活動を行う。必要に応じて広報、国際対応、研究推進委員会と協議し、(1)本会の将来的な発展に寄与するコンテンツの作成・確保、(2)将来の学会構成員確保や社会への薬理的知識の普及のための提案を検討し、実行に向けた戦略を策定する。

第 3 条(構成)

本委員会は、以下の方法に基づいて構成される。委員長及び委員は、原則として理事会においてこれを選出し、理事長が委嘱する。

(1)総務委員会、財務委員会、研究推進委員会、企画教育委員会、次世代の会から各 1 名ずつ選任される委員 (2)理事長及び理事会によって指名された 4 名の委員

2 委員の中から委員長を選出する。

第 4 条(オブザーバー)

理事長、年会長、次期年会長及び本委員会で承認された本会会員は、本委員会にオブザーバーとして出席することができる。

第 5 条(任期)

委員の任期は、役員任期に合わせた 2 年を活動単位とし、再任を妨げない。

第 6 条(本委員会の運営)

委員長は必要に応じて本委員会を開催する。また、委員長は文書をもって委員の意見を徴し、本委員会の開催に代えることができる。

2 本委員会の開催費用は本会の運用財産をもって支弁する。

第 7 条(議事録の提出)

委員長は議事録を作成し、委員長及び委員長の指名した出席委員の代表 2 名以上が署名(電子署名可)の上、これをすみやかに理事長に提出しなければならない。

第 8 条(存廃)

本委員会の存廃は理事会で決定する。

附 則 本規定は、令和 6 年 3 月 19 日より施行する。

日本薬理学会創立百周年記念事業準備委員会 内規

令和6年3月19日制定

(目的)

- 第1条 100周年記念事業の実行に向けて企画および準備を行う。
2. 理事会へ100周年記念事業の企画および準備に関する提案を行う。

(構成)

- 第2条 委員長が指名した委員および若手の会代表から構成される。
2. 必要に応じて委員およびオブザーバーを追加することが出来る。
3. 任期は、事業準備の継続性を鑑み、就任時から事業の完了までとする。
4. 委員長は、原則として理事長が務める。ただし、2026年度の委員長は交代せず、2024-2025期の委員長が務める。
5. 2026-2027期の理事長を委員に含める。

(その他)

- 第3条 本事業に係る資金については、公益社団法人日本薬理学会 特定費用準備資金等取扱規則に基づき「百周年記念事業積立金に関する内規」に定める。

(改 廃)

- 第4条 この規則の改廃は、当該委員会の決議を経て行う。

附 則

- この規則は、令和6（2024）年4月1日より施行する。

変 更

定款施行細則

現 行	変 更
第6章 委員会及び委員 第38条 各常置委員会は委員長1名、委員6名をもってこれを組織する。 2 委員長は必要に応じて委員の増員を3名以内に限り理事長に要請することができる。ただし、編集委員会と広報委員会にあっては原則5名以内を要請できる。	第6章 委員会及び委員 第38条 各常置委員会は委員長1名、委員6名をもってこれを組織する。 2 委員長は必要に応じて委員の増員を<u>原則3</u>名以内に限り理事長に要請することができる。ただし、編集委員会と広報委員会にあっては<u>原則5</u>名以内を要請できる。 附 則 本細則は、令和6年5月14日より施行する。

常置委員会規定

現 行	変 更
(委員会の構成) 第3条 委員会は、細則第38条、第39条及び第40条第1項の規定により、次に掲げる委員をもって構成する。 (1) 理事会において理事中より委員長に選出され、理事長が委嘱した者 1名 (2) 各部会の学術評議員会において選出され、理事長が委嘱した者 6名 (3) 委員長が必要と認めて理事長に要請し、理事長が委嘱した者3名以内、編集委員会及び広報委員会は5名以内	(委員会の構成) 第3条 委員会は、細則第38条、第39条及び第40条第1項の規定により、次に掲げる委員をもって構成する。 (1) 理事会において理事中より委員長に選出され、理事長が委嘱した者 1名 (2) 各部会の学術評議員会において選出され、理事長が委嘱した者 6名 (3) 委員長が必要と認めて理事長に要請し、理事長が委嘱した者<u>原則3</u>名以内、編集委員会及び広報委員会は<u>原則5</u>名以内 附 則 本規定は令和6年5月14日より施行する。

年会学術企画委員会規定

現 行	変 更
(委員会の構成) 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。委員は理事長が委嘱する。	(委員会の構成) 第3条 委員会は、<u>原則として</u>次の各号に掲げる委員をもって構成する。委員は理事長が委嘱する。 附 則 本規定は令和6年5月14日より施行する。

将来構想委員会規定

現 行	変 更
第3条 (構成) 本委員会は、以下の方法に基づいて構成される。	第3条 (構成) 本委員会は、<u>原則として</u>以下の方法に基づいて構成される。 附 則 本規定は令和6年5月14日より施行する。

DX推進委員会規定

現 行	変 更
第3条(構成) 本委員会は、原則として以下の方法に基づいて構成される。委員長及び委員は、理事会においてこれを選出し、理事長が委嘱する。	第3条(構成) 本委員会は、原則として以下の方法に基づいて構成される。委員長及び委員は、<u>原則として</u>理事会においてこれを選出し、理事長が委嘱する。 附 則 本規定は令和6年5月14日より施行する。

IX. 理事会等報告

理事長：橋本 均 以上 1名
理事：吾郷由希夫，安西 尚彦，石澤 啓介，甲斐 広文，木内 祐二，黒川 洵子，坂本 謙司，高橋 禎介，
月見 泰博，東田 千尋，富田 修平，西田 基宏，西谷 友重，西山 成，新田 淳美，廣瀬 謙造，
村松里衣子，柳田 俊彦，若森 実 以上 19名
監事：戸村 裕一，三澤日出巳 以上 2名
オブザーバー：赤羽 悟美，今井由美子 以上 2名

1. 理事会構成について

2024年度は、橋本 均 理事長，吾郷由希夫 総務委員長，廣瀬 謙造 財務委員長，黒川 洵子 編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の 20 名で理事会が運営された。監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した。赤羽 悟美 前理事長，今井 由美子 97 回年会長がオブザーバーとして参加し，理事会運営を支援した。

2. 学会の運営方針について

- ・日本薬理学会は，定款においてその目的を「この法人は，薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及，会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより，薬理学の進歩を図り，もってわが国学術文化の発展に寄与することを目的とする．」と定めており，この理念に沿った学会活動が行ってきた。これまでに，年会，部会をはじめ多くの学術集会の開催，学術誌 JPS と日薬理誌の出版事業，褒賞事業，国内外の関連学会等との連携協力，薬理学エデュケーター認定事業，設立 100 周年記念事業の準備と一部実施，各種選挙，公益法人認定法改正への対応等を行った。
- ・会員管理システムおよび学術集会参加・演題登録システムに関して，新たなシステムの導入を実施した。会員管理システムは 2024 年 5 月より導入した。

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

1) 学術集会，講演会等の開催事業について

- ・地方部会は，第 150 回関東部会はオンライン形式，第 75 回北部会，第 151 回関東部会，第 144 回近畿部会，第 145 回近畿部会，第 146 回近畿部会，第 77 回西部部会は現地でそれぞれ開催された。
- ・薬理学振興助成事業の市民公開講座は第 75 回北部会，第 77 回西部部会の開催に合わせて現地で 2 講座開催された。
- ・次世代の会による次世代薬理学セミナーは第 147 回関東部会，第 151 回関東部会時に開催された。
- ・シン・薬理学セミナー第 3 回 Digital Pharmacology Conference (DPC) 大会は第 151 回関東部会の開催に合わせ，現地およびオンラインによるハイブリッド形式で開催された。
- ・看護薬理学カンファレンスは 6 月 30 日と 11 月 2 日に開催された。それぞれ開催後にオンデマンド配信を行った。

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

- ・日薬理誌は隔月刊で，奇数月にオンラインにて発行している。
 - ・Japanese Pharmacological Sciences (JPS) は，Section Editor 5 名，Associate Editor 18 名で，魅力的な論文の正確で素早い編集に務めている。特別号では，トレンドの話題を積極的に取り入れる他，江橋節郎賞，学術奨励賞の受賞者には総説の執筆を積極的に依頼している。
- JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の令和 6 年度受賞者 4 名を決定した。

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

- ・第 40 回学術奨励賞受賞者 3 名を決定した。
- ・第 30 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 3 編を決定した。

4) 薬理学に関する研究及び調査について

- ・関連団体のアンケート調査に協力を行った。

5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

- ・第 3 回国際対応アソシエイツ交流会（2024 年 8 月 28 日）をオンライン開催した。

・第25回韓日薬理学合同セミナー

・ASCEPT, APFP & APSA Joint Congress 2024 (2024年12月1日～4日, メルボルン) に萩原 正敏特任教授(京都大学)を派遣した。

4. 令和6年度「薬理学エデュケーター認定」申請者266名(新規:16名, 更新:250名)を認定した。認定期間は令和7年から5年間である。

5. 第100回年会長(2027年)の決定

第100回日本薬理学会年会長として廣瀬 謙造(東京大・院医)氏が提案され, 承認された。

6. 名誉会員の推薦

令和7年度に就任する名誉会員候補9名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

石毛 久美子, 上園 保仁, 大野 行弘, 金井 好克, 金子 周司, 杉山 篤, 武田 泰生, 原 英彰, 山田 清文

7. 永年会員の推薦

令和7年度に就任する永年会員候補者2名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

鈴木 正彦, 松田 啓一

8. 令和7年度薬理学振興助成事業決定について

1) 次世代薬理学セミナー, 2) 市民公開講座, 3) 看護薬理学カンファレンス2025, 4) シン・薬理学セミナー Digital Pharmacology Conference, 5) APPW2025(企業と学生とのマッチングイベント, シンポジウム ダイバーシティ推進ランチョンセミナー, JPS-ASCEPT Lecture), 6) 「クスリがわかる」シリーズ講演の各助成事業及び助成額を決定した。

9. 令和6年度の事業報告及び決算を承認し, 学術評議員会及び総会に付議する。令和7年度事業計画及び予算は, 令和6年12月6日開催の理事会の承認, 決定を経て内閣府に提出した。

10. 令和6年度の新規入会者413名を承認した。令和7年度からシニア割引適用を希望する7名を承認した。

IX. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順，敬称略)

総務委員会報告

委員長：吾郷由希夫

委員：北市 清幸，佐藤 洋美，西 昭徳，新田 淳美，森岡 徳光，森本 達也，守屋 孝洋

オブザーバー：古屋敷智之

本年度は8月26日にZoomミーティングにて委員会を開催した。また適宜メールでの議論ならびに確認を行い，事務局を通じて理事長あるいは理事会へ報告，議事の提出を行った。

1. 規則の変更について

変更点は資料「Ⅷ. 規則の制定・変更」のとおりである。

2. 新名誉会員・新永年会員の推薦について

名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，令和7年度に就任する名誉会員候補者9名，永年会員候補者2名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した。

3. シニア会費適用の申請について

令和7年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し，申請者7名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した。

4. 選挙投票率ならびに開票報告について

資料「Ⅺ. 役員選挙等報告」および「Ⅶ. 部会選出新常置委員会委員一覧」のとおりである。

5. 会員管理システム移行について

会員管理システムの利便性およびセキュリティの向上と薬理学会事務局業務負担の軽減のために，会員管理システムを見直し，数多くの学会で使用実績のあるアトラス社SMOOSYを2024年5月より導入した。

利益相反（COI）委員会報告

委員長：吾郷由希夫

委員：北市 清幸，佐藤 洋美，西 昭徳，新田 淳美，森岡 徳光，森本 達也，守屋 孝洋

8月の総務委員会に合わせて委員会を開催した。COI申告書については，委員長より審査が行われ，その結果が委員に報告された。

財務委員会報告

委員長：廣瀬 謙造

委員：安西 尚彦，泉 剛，三枝 禎，筒井 正人，富田 修平，西田 基宏，吉栖 正典

オブザーバー：赤羽 悟美，橋本 均

委員会を11月14日（木），3月3日（月）に，いずれもオンライン（ZOOM）で開催した。

11月14日には令和6年度の決算を見込み，また令和7年度の予算案を編成した。会計に係る重要事項は，ワーキンググループで事前に行った。

3月3日の委員会では，監事監査を受けた財務諸表を確認した。

1. 令和6年度決算について

令和6年度は収入66,051,078円，支出64,837,732円，収支差額は約85万円の黒字で決算した。一般正味財産は1億850万円，指定正味財産と合わせた令和6年度末の正味財産は1億8,974万円となり，前年度より約85万円の増加であった。

1) 個人会費収入は一般会員会費収入が増加したことにより，微増した。賛助会員は口数減の申し出があり，予算600万円を下回る579万円であった。

2) 公1事業：

・令和6年は年会未開催であった。

・部会は7部会（オンライン1部会，オンライン6部会）が開催された。会場費を初めとして予算下回る額で決算したが，科目「謝金その他」は予算（約210万円）を上回る支出（約322万円）となった。予算より演題登録料・賛助金を多く集めた部会や，システム未導入で全て部会事務局が手製で運営する等，各部会の努力により，交付金は全額が学会会計に返却された。

・薬理学振興助成事業は、寄付金や広告・展示料などの収入を得た事業があることから、補助金額は昨年より下回る約 198 万円となった。

・学術集会関連支出は、管理費から事務所借料、給与手当、業務委託費等の配賦を含めた約 415 万円である。

3) 公 2 事業：

・和文誌の刊行収入は購読料や広告料等で約 525 万円と昨年とほぼ同額となった。5 月発行分（第 159 巻第 3 号）から完全オンライン化したことにより、送料負担を削減することができた。

・英文誌はエルゼビアのロイヤリティ収入として、掲載料収入と広告料収入の年間合計が 14 万ドルを超えた金額の 10% に当たる約 19 万円が入金された。US ドル建てで支払うため円安の影響を受け、編集事務局経費（45,000US ドル）や学会負担の Special Issue 掲載料は昨年に引き続き膨らんだ。国際情報発信科研費（650 万円/年）だけでは、全額の充当は厳しい。

4) 公 3 及び公 4 事業：

・褒賞事業は、昨年に引き続き選考委員会をオンライン開催することで、旅費を減少した。

・第 25 日韓合同薬理学セミナー旅費補助として 40 万円発生するなど、国外団体との連携事業は活発に行われていることが費用に反映されている。

5) その他事業：

・令和 7 年 1 月時点で令和 6 年の薬理学エデュケーター認定新規申請者数は 18 名、更新申請者数 250 名であった。

6) 法人会計：

・会議の多くがオンライン開催であったため、会議費を抑えることができた。

・令和 5 年に続き事務局体制の移行期であり、業務委託費は予算（358 万円）を上回る約 489 万円である。

2. 令和 7 年度予算案編成の件

令和 7 年度は収入額 156,014,6000 円、支出額 171,117,120 円、収支差額約 1,510 万円の赤字予算を編成した。

・第 98 回年会が日本解剖学会、日本生理学会と合同で開催される。年会会期中に開催される薬理学振興助成事業も予算に計上している。

・部会は 6 回開催し、うち 1 部会はオンライン開催を予定している。

・刊行事業は令和 6 年と同じ発行回数で計上するが、発行形態は和文誌は 1 月号発行分から完全オンライン化（オンデマンド印刷 50 冊）、英文誌は令和 6 年と発行形態が同じと想定する。科研費申請中のため、国際情報発信費は支出入ともに未計上とした。

・連携事業は国内団体では男女共同参画学協会、日本薬学会連合の会費を計上した。国外団体では ASCCEPT2025、ASPET2025、第 10 回日中薬理学 Joint Meeting、第 26 回日韓合同セミナーにかかる費用を計上した。

・法人会計は業務委託費などの項目で支出増を想定している。費用削減のため会議資料のペーパーレス化を進めることとし、印刷費を令和 6 年時の予算（30 万円）を下回る 15 万円とした。また各委員会には引き続きオンライン開催を有効活用して、経費節減への協力を仰ぐ。

・部会開催時期が会期末に近い場合、年内決算をして未収・未払計上を少なくするよう協力を仰ぎたい。

3. 公益法人法改正への対応

令和 7 年（2025 年）4 月に公益法人制度が改正される。財務規律の柔軟化・明確化を謳い、収支相償原則・遊休財産規則が変わる。猶予期間を活用しつつ公認会計士、税理士と相談しながら本会として対応する。

研究推進委員会報告

委員長：西田 基宏

委員：小原祐太郎、安達 一典、池田 康将、首藤 剛、高井 真司、成田 年、西谷 友重、

津田 誠（前委員長・オブザーバー）

1. 日本医学会連合 TEAM（Transdisciplinary & Exploratory Activity Momentum）事業の推進について

日本解剖学会・日本生理学会との 3 学会合同で申請した事業課題名『ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進』が、「社会医学や感染症に関連する学会との連携強化も必要」と条件付きで採択されたことを受け、日本公衆衛生学会（社会医学系学会）、日本細菌学会（感染症関係の学会）に打診し、参加・協力いただけることになった（2025 年度中に連携企画を開催する予定）。

＜2024 年度のシンポジウム活動＞APPW2025 において、本事業課題の 4 つの柱（エキスポソーム／デジタル／センシング／ホメオスタシス）を軸に、西田が「エキスポソーム／デジタル」をテーマにした他学会との連携シンポジウム（3 月 19 日午後）を企画している。

2. APPW2025（第98回日本薬理学会年会）における「日本薬理学会若手会員（学生・ポスドク）と大学等研究室や製薬企業等とのマッチングイベント」について

研究推進委員会委員、第98回年会の赤羽大会長、次世代の会（川畑先生（薬理学会）・室生先生（解剖学会）・藤村先生（生理学会））と数回にわたり議論を重ね、企画・開催内容、開催日時および場所等を決定し、以下の通り開催する。

開催日時：2025年3月17日（月）17:00～19:00

開催場所：千葉幕張メッセ展示場（ポスター発表会場）

開催当日は、学生・ポスドク46名、大学等研究室および製薬企業（以下；五十音順）関係者20件の参加申し込みがあった。

＜製薬企業＞

池田糖化工業、エーザイ、エピストラ、キシダ化学、佐藤製薬、第一三共、大正製薬、ファーマフーズ、メディフォード、湧永製薬

＜大学等研究室＞

久留米大学、滋賀医科大学、自治医科大学、島根大学鳥取大学、順天堂大学、中部大学、東京慈恵医科大学、富山大学、日本大学

3. 日本医学会連合基礎部会 Rising Star リトリートについて

橋本理事長よりご依頼があり、次世代の会の川畑先生との協議、および研究推進委員会メール会議（2024年12月11～16日）での承認を経て、川畑 伊知郎先生（福島県立医科大学）と北田 研人先生（香川大学）を推薦することとなった。

編集委員会報告

委員長(Editor-in-Chief)：黒川 洵子

委員(Section Editors)：香月 博志、中山 恒、山田 充彦（オブザーバー）、齊藤 源顕、東田 千尋

(Associate Editors)：久米 利明、小泉 修一、山村 寿男、富田 修平、諫田 泰成、中川 貴之、西村 有平

I. JPS 投稿・審査状況（投稿数、採択数、IF、スピード）（2024年12月31日現在）

1. 受付論文数

1) 推移（2018-2024）

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
Submitted	603	825	1,071	543	493	575
Rejected	344	592	817	425	359	462
Accepted	127	110	117	92	76	81
Withdrawn	50	190	137	158	68	41
Publications	129	119	124	87	76	87

・5年前の投稿数と同等であるが、発行数は5年前の30%減。

2) 国別（2022-24）

年・国	中国	日本	India	Iran	Egypt	USA	Thailand	Taiwan	Korea	Pakistan
2022	394	84	6	6	-	8	2	8	6	4
2023	351	85	8	9	9	1	5	5	5	2
2024	422	80	5	5	6	-	4	8	3	4

・投稿数の増加は中国からの投稿数を反映。

・日本の投稿数は不変。

・欧米からの投稿が激減。

2. 採択数

1) Top 10 の採択状況

年・国	日本	中国	Taiwan	USA	韓国	Canada	ロシア	Slovakia	Ethiopia	スイス
2023	59	9	1	3	1	2	0	0	0	1
2024	62	12	2	0	1	0	1	1	1	0

・日本、中国の順位は変わらず。

・多様性を上げたい。

2) Section 別 Accept/Reject 論文数 2024 (2023)

Section	Status	Number
Anticancer drug/Toxicology	Accepted	8(8)
	Rejected	57(51)
Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology	Accepted	6(11)
	Rejected	95(59)
Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems	Accepted	36(29)
	Rejected	137(108)
Natural and herb medicine	Accepted	9(4)
	Rejected	129(90)
Neuropharmacology	Accepted	19(24)
	Rejected	44(51)
Section 導入以前	Accepted	0(3)
	Rejected	0(0)
Total	Accepted	81(76)
	Rejected	462(359)

・Accept は、Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems と Natural and herb medicine が増え、Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology と Neuropharmacology が減った。

3. Impact Factor (Journal Citation Report JCR® 発表)

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
IF	2.360	2.106	2.415	2.575	2.439	2.835	3.337	3.578	3.5	3.0
citation					4,069	4,217	5,204	5,473	5,196	4,726

- ・コロナ禍の投稿数増加を受けて IF は減少。一時的なものと予想される。
- ・引き続き、向上させたい。

4. 編集スピード (week)

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
First Decision	5.0	5.0	5.1	5.0	4.0	3.6

・First Standard Decision までの時間が 3.6 週 (25 日)、と目標に近づいてきた。

II. Special Issue (SI) 強化と問題点

1. 江橋賞・奨励賞受賞者が未投稿

- ・未投稿者のアカウントを維持するコストと手間。
- ・受賞者は JPS への総説 (原著も可) 投稿が条件となっている点を明記。
- ・賞金のタイミングやリマインダーを工夫する、受賞者上司に連絡、等の対策が必要。

2. 現在、Cross-Journal SI (“Sixty years from THC: landscape and perspectives on the pharmacology of cannabinoids”) および Natural Medicine (東田先生企画 “Natural medicine for pharmacotherapy of neurodegenerative and psychological diseases”) が進行中。

3. 今後の SI および依頼総説等の予定

- ・諫田先生企画 (NAM)
- ・韓国薬理学会生理学会の英文誌 KJPP の editor とのコラボ企画 (黒川、西田基宏先生)
- ・動物実験に関するコメンタリー企画 (諫田先生、黒川)
- ・科研費の取得状況を踏まえ、依頼原稿を効果的に増やす。著者に会員が含まれる場合、APC が会員価格になることを周知する (非会員 APC は 2025 年 5 月 1 日より、2070 ドルから 2760 ドルに値上がり)。

III. 100 周年特別企画 SI

- ・2027 年 3 月の日本薬理学会の 100 周年大会の特別企画 SI 出版を行う。
- ・2025 年秋から投稿募集開始、2026 年末に出版予定。
- ・担当：中川先生、黒川、他にも募集中。
- ・予算状況を踏まえ、現在、提案されている企画とのバランスで決めていく。

IV. 2024 年優秀査読者賞

- ・Atsufumi Kawabata (Kindai University)
- ・Kazuhiro Nishiyama (Osaka Metropolitan University)
- ・Naoki Inagaki (Gifu University of Medical Science)
- ・Tomoe Fujita (Dokkyo Medical University)

V. 2025 年優秀論文賞

JPS 優秀論文賞規定および JPS 優秀論文賞受賞論文選考規定に従って、受賞論文を以下のとおり決定した。

- ・著者：Yuka Kusui, 所属：University of Toyama, タイトル：Neuronal activation of nucleus accumbens by local methamphetamine administration induces cognitive impairment through microglial inflammation in mice.
- ・著者：Io Horikawa, 所属：Kobe University, タイトル：Chronic stress alters lipid mediator profiles associated with immune-related gene expressions and cell compositions in mouse bone marrow and spleen.

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：木内 祐二

委員：石澤 啓介, 岩本 隆宏, 大矢 進, 加藤 百合, 諫田 泰成, 坂本 謙司, 千葉 彩乃, 中川 貴之, 吉川 雄朗
オブザーバー：山田 清文

2024 年 6 月 18 日および 10 月 7 日に委員会を開催した。また必要に応じてメール審議を行った。

1. 日本薬理学雑誌について

新広報委員の分担による日本薬理学雑誌の編集作業は順調に進んでいる。総説、実験技術、キーワード解説、最近の話題等の掲載も増やし、毎号バラエティに富む構成を目指す。完全オンライン化による構成（文字数制限など）の柔軟化も検討している。

広告については、J-STAGE では禁止されており、日本医学会「医学雑誌編集ガイドライン」の提言（掲載記事と記事中の商品の広告を並べた販売広告と混同するような掲載は避ける）も参考に、広告の削減を検討し、新薬紹介総説に関連する広告は取りやめることとなった。

2. 学会ホームページについて

学会ホームページを学会広報の重要なツールとしてさらに活用するため、ホームページの構成、画面、内容、運用などを検証し、関連の委員会（編集委員会、DX 推進委員会など）や学会事務局など、関係者とともに協議を進めている。薬理学会 100 周年のタイミングで行う全面的なホームページリニューアルは DX 推進委員会を中心に進め、コンテンツの検討などで積極的に連携・協力する。現行の日本語ホームページ、英語ホームページの更新や改修は、引き続き広報委員会が主導となり進めていく。

1) 日本語ホームページ

- ①これまでトップページの写真が古く、WCP2018 の風景のままとなっていたため、暫定的に薬理学のイメージ画像に差し替えた。
- ②「薬理学とは」が伝わる簡潔な紹介を「学会概要」に掲載した。
- ③現状では、震災お見舞いや NEWS などのメッセージが出せない構造のため、このような投稿を迅速に行える仕組みを検討する。
- ④100 周年記念事業のページの新設を検討する。

2) 英語ホームページ

日本語ホームページと比較して全体的に内容がかなり古いため、3 月の APPW2025 までを目安に、まずは以下の①②の改修を行った。

- ①トップページの更新情報が 2018 年を最後に止まっており、更新が滞っていたため、一旦削除した。
- ②学会の紹介を含めた理事長挨拶を「ABOUT US」掲載した。

3. 令和6年度の薬理学会振興助成事業として、第98回年会、地方部会（西南部会、関東部会）に関連した市民公開講座への助成について申請した。

企画教育委員会報告

委員長：柳田 俊彦

委員：池谷 裕二、喜多紗斗美、高原 章、西山 成、南 雅文、山口 拓

前回の総会以降、委員会を3回（WEB）開催し、所管事項について検討を行った。

1. 新学術評議員申請の審査

新学術評議員選考規定に基づき、学術評議員申請の審査を行った。通常申請者25名については、会員歴および業績の基準を満たすことから申請者全員を新しく学術評議員とすることとした。特例措置での申請者2名についても、新学術評議員選考規定第6条に照らし、特例に該当することから、新しく学術評議員とすることとした。以上の審査結果により27名を理事会に上申することとした。

2. 薬理学エデュケーター申請の審査

事前に各委員より送付された審査結果に基づき、2024年度の薬理学エデュケーター申請の審査を行った。更新250件、新規16件について申請要件を満たしていることから、薬理学エデュケーターとして認定することを理事会に上申することとした。同候補者について理事会に諮ったところ、266名（内、4名は条件付き）の認定が承認された。

令和7年1月に発効する薬理学エデュケーター認定証を送付した。

3. 次世代薬理学セミナー開催報告・開催計画

次世代薬理学セミナーについては、今後もしできる限り、オンサイトとWEBのハイブリッド開催とすることとした。

2024年9月21日 岩手（第75回北部会）

2025年6月7日 愛知（第147回近畿部会）

2024年10月12日 東京（第151回関東部会）

2025年11月8日 宮崎（第78回西南部会）

4. 看護薬理学カンファレンス開催報告・開催計画

2024年6月29日 東京（第150回関東部会）

2025年3月20日 幕張（第98回年会）

2024年11月3日 石川（第12回看護理工学会学術集会）

2025年11月29日 大阪（第148回近畿部会）

5. 「クスリがわかる」シリーズ講演開催計画

2025年3月17日～19日 幕張（第98回年会）

賞等選考委員会報告

委員長1名、委員8名にて委員会を1回開催し、以下について審議した。

1. 第40回（令和7年度）学術奨励賞

受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」、「学術奨励賞規定」、「学術奨励賞受賞者選考規定」、推薦者の評価方法、基本方針を確認し、候補者6名の推薦書について、事前に全委員が審査した評価をもとに検討を行った結果、委員会は、第40回日本薬理学会学術奨励賞の受賞候補者として、3名を理事会に答申することを決定した。

候補者名、研究課題は、以下のとおりである。

【受賞候補者】

高露 雄太（九州大学・大学院薬学研究院・薬理学分野・准教授）

『アストロサイト多様性意義の解明に関する研究』

中村 庸輝（広島大学・大学院医系科学研究科（薬）・助教）

『難治性疼痛病態の理解に基づく鎮痛薬開発を目指した薬理学研究』

永井 裕崇（神戸大学・大学院医学系研究科・助教）

『環境要因が組織恒常性の破綻を招く機序の解明』

2. 令和 7 年度開催の薬理学振興助成事業の選考

申請のあった 8 件について審議した。いずれも助成するに相応しい事業と判断したが、予算削減の観点から、各申請全て 2 割減の目標にて、採択することを決定した。

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

第 15 回日本学術振興会育志賞、第 65 回 東レ科学技術研究助成、2024 年度上原賞、小林がん学術振興会「支持療法・緩和治療研究、活動に対する助成」に各 1 名を推薦した。

年会学術企画委員会報告

委員長：高橋 禎介

委員：石澤 啓介、甲斐 広文、月見 泰博、高井 真司、高原 章、西山 成

オブザーバー：若森 実、赤羽 悟美（第98回年会長）、西田 基宏（第98回副年会長）

前回の総会以降、7月18日および8月27日にZoomによるオンライン委員会を開催すると共にメールによる意見交換を行い、所管事項について以下の通り検討した。

1. 第98回年会における企業企画シンポジウムについて

企業所属委員を中心にシンポジウム構想を立案し、下記を採択した。

- ・ 医薬品開発におけるヒトがん組織を活用したトランスレーショナルリサーチ
企画者：市川 克臣 先生（株式会社Crown Bioscience & MBL）
- ・ 製薬企業各社の戦略的モダリティを用いた研究開発の現状
企画者：山田 久陽 先生（メディフォード株式会社、東京理科大学薬学部）

2. 第98回年会におけるMeet the professors講演者について

各委員より推薦された講演候補者について意見集約を行った結果、幅広く研究活動を展開して若手研究者の良いロールモデルに成り得るという観点にて西田基宏教授（九州大学大学院薬学研究院生理学分野）を講演者として選考した。

江橋賞選考委員会報告

委員長，外部委員 5 名，内部委員 3 名

令和 6 年，江橋賞選考委員会は学会内委員 4 名と学会外委員 5 名で構成されている。

第 18 回江橋賞候補者選定のための委員会を，10 月 22 日（火）にオンライン（ZOOM）で開催した。江橋賞選考委員会規定に定める委員会の定足数を満たすことを確認し，議事に入った。

1. 第 18 回江橋節郎賞受賞候補者の選考について

- ・ 第 18 回は『トランスレーショナルリサーチ・応用』の領域で募集し，推薦候補者は 2 名であった。
- ・ 委員 9 名により，各候補者の研究を「独創性」，「世界から見た位置づけ」，「当該分野に与えた影響度」，「研究の流れ・今後の発展性」の 4 項目と，学会内委員は「薬理学への貢献」を加えた 5 項目で，それぞれを 10 点満点とする事前評価を行い，その結果は選考の参考とすることを確認した。
- ・ 江橋賞選考委員会規定第 4 条第 2 項「委員が選考の対象者の利害関係者である場合の扱いは，委員会の判断による。」に基づき利害関係者として扱うべき委員の有無を確認したが，該当する委員はいなかった。
- ・ 委員間での意見交換後，以下の点に留意して投票で受賞候補者を議決することとした。その際 ZOOM の投票機能を利用する（電子投票）こととした。
 - i) 委員長を除く出席委員 8 名の無記名投票により，その 3 分の 2 以上の票を獲得した者を受賞候補者とする
 - ii) 候補者の中に，江橋賞受賞者として相応しい候補者がいないと判断した場合，白票を投じることができる
 - iii) 1 回目の投票で 3 分の 2 以上の票を獲得する候補者がいない場合，得票上位者 1 名について再度投票を行い，その 3 分の 2 以上の得票があればその候補者で決定する。もし 3 分の 2 以上の得票がなければ，該当候補者なしとする。2 回目の投票も白票を選択肢に加える。
- ・ 上記 4 項目の視点に「応用」としての視点も加えて十分な意見交換が行われた後，候補者 2 名を対象とし，ZOOM の投票機能を用い，慣例により委員長を除いて無記名投票を実施した。投票総数の 3 分の 2 以上が白票であったため，本委員会冒頭での申合せに則り，第 18 回江橋賞受賞候補者を選考できなかったと理事長に報告することとした。

2. 今後の課題について

江橋賞受賞者として相応しい候補者を選考するため、『トランスレーショナルリサーチ・応用』の領域での推薦数を増やす努力が必要である。

3. 委員任期の満了について

第 18 回江橋賞の選考を以って、学会外委員の 2 名、学会内委員の 2 名が任期を満了する。

国際対応委員会報告

委員長：安西 尚彦

委員：古屋敷智之（副委員長）、石井 優、黒川 洵子、斎藤 顕宜、西田 基宏、若森 実

顧問：飯野 正光、三品 昌美、金井 好克

オブザーバー：近藤 一直（IUPHAR Education section 委員）、富田 修平（IUPHAR PEP 委員）、

渡邊 裕司（IUPHAR Clinical Pharmacology Section 委員）、

タムケオ ディーン（「国際対応アソシエイツ」代表）、廣瀬 謙造（第 100 回年会長）

2024 年 8 月 16 日（金）にオンライン（ZOOM）にて委員会を開催した他、随時メールによる審議を行った。

1. 前期委員会からの引き継ぎ事項の確認

2024 年 8 月 16 日開催の委員会において、国際対応委員会の役割としての重要事項である「薬理学会会員へのさらなる情報提供と連携の推進（特に国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」を活用した情報提供と、国際対応アソシエイツを中心とした連携推進）」「国際対応ための戦略策定と国際的プレゼンスの確立・維持」「国際対応について理事会および他の委員会との連携のさらなる強化」を含めて、前委員会からの引き継ぎ事項が確認された。

2. 今期の各国薬理学会等担当

・各国薬理学会：安西 尚彦（APFP および全般）、古屋敷智之（CNPHARS 担当）、石井 優（IUPHAR 担当）、黒川 洵子（KSP および ASCEPT 担当）、西田 基宏（BPS 担当）

・日本学術会議 IUPHAR 分科会委員長：古屋敷智之（26 期）

・IUPHAR, APFP 関連：

Executive Committee: 石井 優（2024 年就任）

NC-IUPHAR: 金井 好克、貝淵 弘三

Education Section: 近藤 一直

Pharmacology Education Project (PEP): 富田 修平

Immunopharmacology Section: 石井 優

Neuropsychopharmacology: 古屋敷智之

Clinical Pharmacology Section: 渡邊 裕司

APFP President: 安西 尚彦（2024 年就任）

APFP Councilor: 飯野 正光

APFP Past president: 三品 昌美

3. 国際対応アソシエイツ

本委員会の重要な役割の一つである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づき、会員との連携推進の一環として、国際交流のさらなる充実・拡充を図り、また国際交流イベント等への参画を促進することを目的として「国際対応アソシエイツ」を運営している。国際対応アソシエイツは、国際交流に関する会員の連絡会であり、国際対応委員会と連携し、イベント等の企画、立案、実施へ参画、また国際対応委員会にオブザーバーとして代表のタムケオ ディーン先生が参加している。2024 年 8 月 27 日（火）に、国際対応アソシエイツ交流会をオンラインにて開催した。

4. 国際交流ひろば（国際対応委員会 HP）

本委員会のミッションのひとつである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づく「会員への情報提供」の一環として、国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」を日本薬理学会 HP に開設している。国際交流イベント情報を掲載していくとともに、IUPHAR, APFP, KPS, CNPHARS, ASCEPT, ASPET, BPS と連携した活動を紹介している。また、IUPHAR の薬物標的・創薬標的データベース Guide-to-Pharmacology および薬理学電子教科書 IUPHAR Pharmacology Education Project (PEP)、WCP2018 (Kyoto)アーカイブ (YouTube) のバナーを置いている。

5. ASCEPT との講師交換プログラム

ASCEPT-APFP-APSA 合同年会（2024 年 12 月 1～4 日 Melbourne にて開催）に萩原正敏先生（京都大学）を講師派遣した。また第 98 回日本薬理学会年会（APPW2025）に ASCEPT から Prof. Kevin Pfleger を講師として招聘した（3 月 19 日（水）9:30～10:30、第 5 会場）

6. 第 25 回韓日薬理学会合同セミナー

2024 年 11 月 7～9 日に、韓国済州島で開催された（日本薬理学会側代表：黒川 洵子）。

7. APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists)

2024 年 12 月 1～4 日 オーストラリア Melbourne にて、ASCEPT-APFP-APSA 合同年会として開催された。

8. 今後の国際交流イベント

・第 10 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting は、日本臨床薬理学会がホストとして 2025 年 12 月に第 46 回日本臨床薬理学会学術総会（東京）に合わせて開催予定。

・WCP2026 (Melbourne Australia) は、2026 年 7 月 12～17 日に開催予定。

将来構想委員会報告

委員長：富田 修平

委員：首藤 剛，西谷 友重，新田 淳美，南 雅文，向田 昌司，村松里衣子，森本 達也

オブザーバー：杉山 篤，赤羽 悟美（第 98 回年会長），橋本 均（理事長，百周年記念準備委員長），
若森 実（第 99 回年会長）

オンラインあるいはメール審議による委員会を開催し，所管事項について検討を行った。

1. 前期委員会からの引き継ぎ事項の確認

将来構想委員会の所管事項に則り，次世代の薬理学を担う人材の育成，「年会への参加者数（参加率）増加に向けた取り組み」，「ダイバーシティ関連の推進」を含めて，前委員会からの引き継ぎ事項が確認された。

2. 次世代の薬理学を担う人材の育成，年会への参加者数（参加率）を増やす取り組みについて

次世代の薬理学を担う人材の育成，および年会への参加者数（参加率）を増やす取り組みに関する施策提案について，委員会内 WG で出された到達目標項目について委員会内にて共有した。具体的に取り組む内容については継続審議とする。

3. ダイバーシティ関連の活動

1) 男女共同参画学協会連絡会について

令和 6 年 11 月より男女共同企画学協会連絡会へ正式加盟学会として活動を開始した。今後，将来構想委員会が担当委員会として活動し，連絡会との窓口は西谷友重委員が担当される。本連絡会の定期運営委員会およびシンポジウムに参加し意見交換した。

2) 第 98 回年会（APPW2025）の 3 学会合同企画シンポジウムダイバーシティ推進ランチョンセミナーについて

第 98 回年会において，3 学会合同企画シンポジウムダイバーシティ推進ランチョンセミナー「研究者の水漏れパイプ問題」を予定している。薬理学会からの登壇者は東田千尋先生にお引き受けいただいた。なお，本ランチョンセミナーの実施について，令和 7 年度の薬理学振興助成事業に申請した。

DX 推進委員会報告

委員長：坂本 謙司

委員：吾郷由希夫，安西 尚彦，諫田 泰成，東田 千尋，橋本 均，柳田 俊彦

オブザーバー：上原 孝（前期委員長）

本年度は，zoom によるオンライン会議を 2 回開催した。

1. 活動内容

本年度は，日本薬理学会 100 周年記念事業として行う，学会ホームページのリニューアルの方針について検討を行った。

1) 理事会，薬理学会各委員会の委員長，ならびに事務局に，ホームページに関する問題点や要望をあげてもらうように依頼し，意見を集約した。

2) 集約した意見をもとに，ホームページリニューアルに際しての要件を決定した。

3) ホームページの作成依頼先の候補として，中西印刷（株）と（株）エーイー企画の 2 社を選定し，見積とプレゼンテーションを依頼した。

2. 今後の活動

1) プレゼンテーションを DX 推進委員会メンバーならびに広報委員会の木内委員長を交えて行い，最終的な依頼先を決定する。

2) 依頼する会社と綿密なコミュニケーションをとり，より利用しやすく，かつコスト面においても大きな負担がない形で持続可能なホームページを作成できるよう，注力する。

3) 日本薬理学会に関する英語の情報発信が少ないことが，前期委員会においても学会の問題として挙げられている。情報発信の一環として，LinkedIn を含む SNS に公式アカウントを開設することが前期委員会で提案がされており，継続審議になっている。しかし，アカウントを開設する際には，日本薬理学会がどのような学会で何を目指しているのかなど，発信する内容を英語で公開する必要がある。これらは，ホームページに掲載すべき内容なので，本委員会としては，まずはホームページのリニューアルに注力し，その次の段階で公式 SNS アカウントの開設などの情報発信の方策について考えていくこととした。

日本薬理学会百周年記念事業準備委員会報告

委員長：橋本 均

委員：赤羽 悟美，池谷 裕二，上原 孝，大久保洋平，川畑伊知郎，小山 隆太，津田 誠，廣瀬 謙造，
古屋敷智之，宮川 和也，谷内 一彦

オブザーバー：小泉 修一，坂本 謙司，中川 貴之

Zoom によるオンライン会議の開催およびメールでの報告を行った。

1. 100 周年記念事業の企画の方針：過去 100 年を振り返るとともに、薬理学会の次の 100 年に向けた未来志向的な事業（情報発信・若手育成など）を行う。

2. 日本薬理学会 100 周年記念博士研究奨励賞

日本における薬理学研究の次の 100 年を担う人材育成を促すことを目的とする。

なお、第 98 回日本薬理学会年会（APPW2025）中に、次の通り受賞講演会が開催される。

第 1 回日本薬理学会 100 周年記念博士研究奨励賞受賞講演会

日時：3 月 19 日（水）8:30～9:30 会場：第 5 会場

3. 日本薬理学会 100 周年記念号の発行

日本薬理学会 100 周年記念号 WG により具体的な計画が進められている。

4. JPS100 周年記念特集号

編集委員会により具体的な計画が進められている。

5. 薬理学会ホームページのリニューアル

広報委員会，DX 推進委員会，100 周年記念事業準備委員会等が連携して，学会ホームページの再構築などの事業を行っている。これに合わせて，新薬紹介プラットフォームについての内容も検討中である。

6. 100 周年記念セレモニー

第 100 年会（年会長：廣瀬 謙造先生）とともに計画を具体化していく予定である。

7. 100 周年記念積立資産（特定費用準備資金）

2023 年末の 100 周年記念積立資産は 900 万円であったが，2024 年に 100 万円を積み増しして 1,000 万円となった。

次世代の会活動報告

＜2024 年度運営委員＞（部会ごとアイウエオ順）

北 部 会：川畑伊知郎（代表），田頭 秀章，千葉 彩乃，長沼 史登，根本 互

関東部会：林 良憲，平山 友里，溝口 尚子，松本 信圭＊，道永昌太郎

近畿部会：石澤 有紀，石本 尚大＊，衣斐 大祐（副代表），大内 一輝，大垣 隆一（副代表），篠原 亮太，鈴木 良明，
坪田 真帆，中村 庸輝，船本 雅文＊，永安 一樹，西山 和宏，野口 雅史＊，野村 篤生＊

西南部会：市原 克則，清水 翔吾＊，東島 佳毅＊，藤川理沙子，向田 昌司，矢吹 悌，山下 智大

2024 年度は次世代の会規定に基づく代表の交代を行った。また次世代の会運営の円滑化を促進するため，新規に副代表 2 名を擁立した。随時メール会議，オンライン会議のほか，APPW2025 会期中に運営委員会を実施（2025 年 3 月 19 日）。

＊は 2024 年度新規運営委員

1. 運営委員の編成

・次世代の会規定による運営委員満了：小山 隆太，宮川 和也，清水 孝洋

・2024 年度より，下記の先生方が次世代の会運営委員に就任された。

松本 信圭（東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室）

石本 尚大（金沢大学附属病院大学院医薬保健学総合研究科臨床薬理動態学分野）

船本 雅文（徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野）

野口 雅史（和歌山県立医科大学薬学部薬品作用学研究室）

野村 篤生（同志社女子大学薬学部薬理学研究室）

清水 翔吾（高知大学医学部生理学講座統合生理学）

東島 佳毅（宮崎大学テニュアトラック推進室）

2. 次世代薬理学セミナー

・次世代薬理学セミナー 2024 in 岩手：「細胞内局所シグナル制御機構の解明と創薬」

第 75 回日本薬理学会北部会（2024 年 9 月 21 日（土），岩手医科大学：平 英一先生）にてハイブリッド開催

担当：田頭 秀章（秋田大学），千葉 彩乃（山形大学），根本 互（東北医科薬科大学）

・次世代薬理学セミナー 2024 in 東京：「次世代研究者による心臓および血管に着目した薬理学的研究」

第 151 回日本薬理学会関東部会（2024 年 10 月 12 日（土），星薬科大学：成田 年先生）にて開催
担当：道永昌太郎（明治薬科大学）

3. APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会合同大会）における次世代の会参画企画
・次世代の会企画シンポジウム

本大会では日本薬理学会次世代の会，日本生理学会若手の会運営委員会，日本解剖学会若手育成委員会による合同シンポジウムを企画し，下記の 2 つのシンポジウムを開催。

① 「生命活動を支える脳神経系の機能・構造・分子メカニズム」(2S09m)

担当：川畑伊知郎（薬理学会），須田 悠紀（生理学会），柏木有太郎（日本解剖学会）

② 「先端技術が切り拓く解剖学・生理学・薬理学」(2S16a)

担当：千葉 彩乃（薬理学会），藤原 悠紀（生理学会），服部 祐季（日本解剖学会）

・「APPW2025 若手会員（学生・ポスドク）と大学等研究室や製薬企業等とのマッチングイベント（主催：日本薬理学会研究推進委員会，日本解剖学会，日本生理学会，日本薬理学会次世代の会）」

担当：川畑伊知郎（薬理学会次世代の会）

・APPW2025 サテライト企画「若手と学生の研究交流会」～融合する知識と技術～

本大会では会期前日に，日本薬理学会次世代の会，日本生理学会若手の会運営委員会，日本解剖学会若手育成委員会による合同研究交流会を企画，開催した。

担当：川畑伊知郎（薬理学会次世代の会），大垣 隆一（薬理学会次世代の会），室生 暁（解剖学会若手研究者の会），藤原 悠紀（生理学会若手の会）

4. 第 1 回 100 周年記念博士研究奨励賞

・APPW2025 における日本薬理学会 100 周年記念博士研究奨励賞受賞講演会 (3SP05-01) を次の通り実施することにした。
プレゼンター：橋本 均 先生

担当：川畑伊知郎（次世代の会），衣斐 大祐（次世代の会）

5. 次回次世代薬理学セミナー

第 147 回日本薬理学会近畿部会（2025 年 6 月 7 日（土），近藤 一直先生，藤田医科大学）にてハイブリッド開催予定。

担当：衣斐 大祐（名城大学）

6. 次々回次世代薬理学セミナー

第 78 回日本薬理学会西南部会（2025 年 11 月 8 日（土），池田 正浩先生，宮崎大学）にて開催予定。

担当：東島 佳毅（宮崎大学）

7. 次世代の会ホームページ (<http://angesjps.umin.jp>) の運営

担当：川畑伊知郎，大垣 隆一，衣斐 大祐（次世代の会），日本プリプレス株式会社

8. その他

各種委員会，百周年記念誌 WG への参画，Rising Star リトリートの候補者推薦

XI. 2026, 2027 役員年度 役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

令和 6 年 12 月 1 日： 被選挙権者名簿告示，投票サイトオープン

令和 7 年 1 月 1 日： 投票締切

1 月 6 日： 4 部会一斉開票（候補者決定）

9 日： 選挙結果をメールにて通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	49	154	149	55	407
投票率	38.0	33.3	39.0	39.9	37.6(%)
(前回)	(41.7)	(33.3)	(36.9)	(47.4)	(39.8)

開票管理者 北 部 会： 平 英一 部会長， 吾郷由希夫 総務委員長

関東部会： 佐藤 洋美 総務委員， 吾郷由希夫 総務委員長

近畿部会： 田中 智之 部会長， 吾郷由希夫 総務委員長

西南部会： 岩本 隆宏 部会長， 吾郷由希夫 総務委員長

【Web 選挙後最終候補者】(50 音順)

理事

北 部 会：久米 利明，丹野 孝一，南 雅文，吉川 雄朗 以上 4 名

関東部会：安西 尚彦，磯濱洋一郎，諫田 泰成，小泉 修一，三枝 禎
坂本 謙司，高原 章，成田 年，堀 正敏，安井 正人 以上 10 名

近畿部会：吾郷由希夫，石澤 啓介，大喜多 守，高井 真司，富田 修平
西村 有平，西山 成，人見 浩史，古屋敷智之，森岡 徳光 以上 10 名

西南部会：久場 敬司，齊藤 源頭，津田 誠，西田 基宏 以上 4 名

監事 赤羽 悟美，田熊 一敏，戸村 裕一，山脇 英之，吉栖 正典，和田孝一郎 以上 6 名

2. 役員選挙（第二段選挙：年会参加登録者による Web 投票）

令和 7 年 2 月 10 日： 役員候補者の抱負と役員候補者名簿掲載，投票サイトオープン

3 月 11 日： 投票締切

3 月 14 日： 開票

18 日： 令和 7 年度学術評議員会にて結果報告

令和 8 年 3 月： 役員選考委員会選出理事とともに総会で承認予定

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 1. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）。

XII. 2025 年度新学術評議員申請者一覧 (27 名)

※ 五十音順

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
1	天ヶ瀬葉子	大阪医科薬科大学薬学部 准教授	15	細胞内情報伝達	13(6)	4	0	漆谷 徹郎
2	大倉 毅	鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学 講師	8	内分泌薬理	49(44)	3	0	今村 武史
3	小口 達敬	昭和大学医学部 薬理学講座医科薬理学部門 准教授	10	中枢神経薬理 (薬 物耐性・依存を含 む)	33(26)	6	0	木内 祐二
4	小原 圭将	東邦大学薬学部薬理学教室 准教授	13	平滑筋薬理	53(47)	35	5	田中 芳夫
5	荻谷 嘉顕	東京大学大学院薬学系研究科 講師	15	その他 (システム 薬理学)	20(9)	3	2	諫田 泰成
6	川岸 裕幸	国立医薬品食品衛生研究所 薬理部 室長	7	心血管薬理 (血液 を含む)	26(17)	12	3	諫田 泰成
7	久保山友晴	第一薬科大学薬学部 准教授	7	中枢神経薬理	44(36)	7	1	東田 千尋
8	小島 直季	大正製薬株式会社薬効薬理研究 室長	20	腎薬理	18(15)	4	2	高橋 禎介
9	小松 知広	福岡大学医学部薬理学 講師	5	心血管薬理 (血液 を含む)	36(27)	5	0	岩本 隆宏
10	近藤るびい	名古屋市立大学大学院 薬学研究科細胞分子薬効解析学 助教	6	受容体・チャネル・ 輸送系	16(16)	14	4	山村 寿男
11	竹馬真理子	慶應義塾大学医学部薬理学教室 准教授	8	受容体・チャネル・ 輸送系	53(53)	4	0	安井 正人
12	寺菌 英之	鹿児島大学病院薬剤部 教授・薬剤部長	7	その他 (生物物理・ 生体医工学)	46(46)	2	0	岩本 隆宏
13	中平 毅一	奈良県立医科大学薬理学講座 准教授	6	免疫薬理・炎症	70(55)	5	0	吉栖 正典
14	野口 雅史	和歌山県立医科大学薬学部 助教	5	呼吸器薬理	12(8)	7	0	橋本 均
15	濱田 祐輔	星薬科大学薬理学研究室 助教	14	中枢神経薬理 (薬 物耐性・依存を含 む)	28(2)	20	1	成田 年

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
16	林 周作	京都薬科大学 病態薬科学系薬物治療学分野 准教授	20	消化器薬理	50(45)	15	2	加藤 伸一
17	船本 雅文	徳島大学大学院 医歯薬学研究部薬理学分野 准教授	9	心血管薬理（血液 を含む）	48(42)	6	8	池田 康将
18	三浦 綾子	宮崎大学医学部 機能制御学講座薬理学分野 助教	5	生化学薬理（代謝 を含む）	14(13)	4	0	武谷 立
19	宮本 朋佳	兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野 助教	15	臨床薬理	20(20)	16	2	川畑 篤史
20	村澤 寛泰	株式会社日本バイオリサーチセンタ ー試験部 次長	30	中枢神経薬理（薬 物耐性・依存を含 む）	15(12)	11	2	平澤 康史
21	森原 啓文	大阪医科薬科大学医学部 薬理学教室 助教	10	心血管薬理（血液 を含む）	10(9)	14	0	高井 真司
22	八木 健太	徳島大学病院 総合臨床研究センター 特任講師	5	臨床薬理	52(46)	27	0	石澤 啓介
23	安田 純平	和歌山県立医科大学 医学部薬理学講座 助教	11	心血管薬理（血液 を含む）	10(9)	6	1	西谷(中村) 友重
24	山野 和也	アステラス製薬株式会社 イムノオンコロジー Early Innovation Lead	20	化学療法	16(13)	1	0	山野真由美
25	横江 俊一	大阪医科薬科大学医学部 薬理学教室 助教	16	心血管薬理（血液 を含む）	20(19)	8	1	高井 真司

特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
26	佐藤 貴弘	久留米大学分子生命科学研究 所遺伝情報研究部門 教授	1	内分泌薬理	62(57)	2	0	岩本 隆宏
27	細田 洋司	信州大学医学部分子病態学 特任教授	4	生理活性物質	171(156)	4	0	上園 保仁